

2015年度 プロジェクト実習B 活動報告会

プロジェクト実習Bは、常陸太田市北部の里美地区を主たる学びの場として多くの方々のご支援に支えられて活動して参りました。今年は「多くの方に足を運んで戴ける報告会」をコンセプトに、大学生・高校生による活動報告に加えて、里美牛・里川カボチャを使い新たな里美ブランド商品を目指す各種食品の試食と関係者スピーチを組み込み、多くの方々にこの活動を知って戴きたいと思っています。

日時 平成28年1月31日(日) 13:00-16:00

場所 常陸太田市里美学習センター(一般の参加歓迎)

第一部 平成27年度活動報告

今年も多くの方々に支えられて、様々に活動させて戴きました。
学生・生徒からこの一年の活動についてご報告申し上げます。

活動概要

担当教員 鈴木敦

さとみ・あいチームの活動

プロジェクト実習B・さとみ・あいチーム

先進地実地研修(遠郊)報告

プロジェクト実習A~D 履修生

茨城県立水戸農業高等学校の活動

食品化学科・農業科 教員・生徒

茨城大学人文学部のPBL授業「プロジェクト実習B」は、地域の皆様に支えられて開講4年目を迎えました。この間、地元里美地区の皆様はもとより水戸市中心市街地の商店街や常磐大学・茨城キリスト教大学、更に茨城県立水戸農業高等学校等々、この活動に連携して取り組んで下さる方々も年々拡大しています。多くの方々のご参加をお待ちしております。

人文学部副学部長 澁谷浩一

第二部 里美製品の試食会と関係者スピーチ

学生・生徒が直接・間接に関わって参りました、里美牛・里川カボチャを使った新たな里美ブランド商品を目指す各種食品を試食して戴きながら、茶話会を開きます。関係の方々や学生・生徒によるスピーチも交え、和やかな交流の場にしたいと考えています。初めての方もぜひ気楽にご参加戴き、里美での活動のありようを、目と耳だけでなく舌でも知って戴ければ幸いです。

・試食品(予定)

里美牛カレー・里川カボチャのスイーツ・里川カボチャ焼酎・里川カボチャの煮物 等

会場 常陸太田市折橋町 623
常陸太田市 里美学習センター
主催 茨城大学人文学部
共催 茨城キリスト教大学
茨城県立水戸農業高等学校
茨城大学大学教育センター
後援 常陸太田市

お問合せ

水戸市文京 2-1-1

茨城大学人文学部 鈴木敦

☎029-228-8115

Eメール atsushi.suzuki.8115

@vc.ibaraki.ac.jp

活動報告会

- | | | |
|---|--|---------------|
| ① | 開会挨拶
澁谷浩一（茨城大学人文学部副学部長） | 13:00 - 13:05 |
| ② | 第一部 平成27年度活動報告
1：今年度の活動概要
(1) プロジェクト実習B
担当教員 鈴木敦
(2) 初年次PBL試行と今後の見通し
担当教員 鈴木敦
2：学生・生徒の活動報告
(1) さとみ・あいチームの活動
プロジェクト実習B さとみ・あいチーム
(2) 先進地実地研修（遠郊）報告
プロジェクト実習A～D 履修生
(3) 茨城県立水戸農業高等学校の活動
水戸農業高等学校食品化学科・農業科 教員・生徒
－ 休憩・準備 20分 － | 13:05 - 14:25 |
| ③ | 第二部 里美製品の試食会と関係者スピーチ
(1) 里美牛のブランド化と販売戦略・今後の見通し
小林信房（里美ふるさと振興公社 代表理事）
(2) 里川カボチャ復活への取り組みと今後の見通し
荷見 誠（里川カボチャ研究会 会長）
(3) 里川カボチャ焼酎とおさとちゃんグッズ
山口景司（合名会社山口 専務）
(4) 地域外との繋がり
宮本紘太郎（泉町二丁目商店街振興組合）
(5) 大学生・高校生から一言
茨城大学・茨城キリスト教大学・常磐大学・水戸農業高等学校 学生・生徒
(6) 連携校教員から一言
茨城キリスト教大学・常磐大学・水戸農業高等学校 教員
(7) プロジェクト実習への想い
蜂屋大八（宇都宮大学准教授・茨城大学プロジェクト実習B 初期担当者）
(8) 常陸太田市の支援と今後への期待
白石栄里（常陸太田市役所里美支所 統括） | 14:45 - 15:55 |
| ④ | 閉会挨拶
鈴木敦（茨城大学大学教育センター副センター長） | 15:55 - 16:00 |



日時 平成28年
1月31日(日)
 13:00-16:00 (12:30 受付開始)

会場 常陸太田市 里美学習センター
 茨城県常陸太田市折橋町 623

- 車での行き方**
- ① 常磐道・那珂インターの料金所を出て、分岐を右方向へ進む。
 - ② 「東海・菅谷市街」の標識に従って県道65号線に入る。
 - ③ そのまま道なりに県道31号線を進み、常磐道の高架をくぐる。
 - ④ 「ひばりヶ丘」交差点を左折。（「常陸太田」方面）
 - ⑤ 国道349号線に突き当たったら左折し、約30km直進。
 - ⑥ 「折橋」交差点を左折すると右手に里美学習センター入口があります。

茨城大学
茨城大学就業力育成支援事業
根力育成プログラム

「プロジェクト実習B」の 背景・経緯と今後

茨城大学・大学教育センター
副センター長（キャリア教育部長）
鈴木 教 atsushi.suzuki,
8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

お話の流れ


1. 茨城大学就業力育成支援事業
2. 根力育成プログラムとプロジェクト実習
3. プロジェクト実習B・大まかな流れ
4. 発足時(2011年度)との差異
5. 授業改善への取り組み
6. 報告会のコンセプト

2

就職力と就業力・根力(ねぢから)

就職力：
面接対策などの、就職試験突破のための力

就業力：
就職活動時だけでなく、
就職後も活躍して行ける
ための種々の能力の総体



根力：
本学学生が、卒業時に身につけているべき就業力
経済産業省「社会人基礎力」をベースに
茨城大学独自の要素を加えて定義

3

根力の構成要素

項目	説明	構成要素
1. 基礎的作業力 *この要素の上に「根力」を構築していく	読解力	文章的理解力、論理的思考力、分析力
	書き	文章作成能力、論理的思考力、分析力
2. 社会生活力	コミュニケーション能力	基本的なコミュニケーション能力
	読解力	読解能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力
	生活力	自立した生活を営める能力
3. 行動力	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、情報伝達に必要とするための力
	情報伝達力	生活を送る上で必要な、情報伝達に必要とするための力
	主体性	物事に進んで取り組む力
4. 思考力	継続力	他人に働きかけ要請する力
	実行力	目的を設定し、確実に行動する力
	対応力	物事に遇われた、疑問に思い、主体的に対応する力
	課題発見力	現状を分析し、自らの課題を明らかにする力
5. チームワーク能力	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力
	想像力	課題が抱える影響、課題解決方法の影響など、状況をイメージする力
	課題解決力	課題の本質を捉え、適切な解決方法を提示する力
6. その他	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の衝突や立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人や物事との関係を理解する力
7. その他	規律性	社会のルールや人への約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

4

茨城大学根力育成支援事業

1. 4年一貫の「根力育成プログラム」
2. アクティブラーニング(能動的学習)と
PBL(課題対応型学習)技法の重視
3. 学生同士の相互教育体制
4. 学生の学びを学生自身と教職員が
共有するための電子ポートフォリオ
システムの構築
5. 所定単位の修得者に「根力修了証」発行

5

根力育成プログラム

各期の全学目標	根力(ねぢから)育成プログラム
第一段階 根力養成プログラム： 学生の自発的学びを奨励し、 社会で活躍するための基礎となる能力 ＝根力を育成するための土台を築く ①フレッシュマンゼミナール ②ステップアップ科目群 ③スタックアップ科目群 根力の方針を明確にして、 次の段階へ	1年 根力養成プログラム ①フレッシュマンゼミナール
	2年 根力養成プログラム ②ステップアップ科目群 根力強化プログラム
第二段階 根力強化プログラム： 履修と実地体験を通じて、 社会人として要求される能力を 理解・養成する	3年 根力強化プログラム
第三段階 根力実践プログラム： 実際の業務を通して、 培ってきた力を確認し、 不足点を自覚して、自ら求めて行く	4年 根力実践プログラム

6

プロジェクト実習の位置付け

根力強化プログラム(初めての受講者向け)
「プロジェクト実習**スタッフ編**」

根力実践プログラム(二回目の受講者向け)
「プロジェクト実習**リーダー編**」

根力実践プログラム(三回目の受講者向け)
「プロジェクト実習**メンター編**」

7

2015年度 プロジェクト実習の構成

授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	総合	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
段階	対象 学年			
根力強化 プログラム	2-4年	プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習C スタッフ編
根力実践 プログラム	3-4年	プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習C リーダー編
	4年	プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習C メンター編

8

大まかな流れ(1)

2010年度
・茨城大学、文科省「大学生の就業力育成支援事業GP」に採択される

2011年度
・茨城大学に蜂屋准教授着任。里美地区をフィールドとした授業を設計

(1)域学連携
常陸太田市役所・里美地区地域おこし協力隊・総務省等補助金

(2)3大学連携
常磐大学・茨城キリスト教大学

9

大まかな流れ(2)

2012年度
・民主党の事業仕分けにより「就業力GP」打ち
・プロジェクト実習開講
・里美Caféチーム(現・プロジェクト実習B
さとみ・あいチーム)活動開始

2013年度
・「就業力GP」の事実上の後継補助金である文科省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に採択される
・蜂屋准教授、宇都宮大学に転出
・後任として、鈴木が里美地区でのプロジェクト実習の担当教員も兼任

10

大まかな流れ(3)

2014年度
・里美地区地域おこし協力隊(第一期)三名、任期満了に伴い交替
・里美ふるさと振興公社・茨城県立水戸農業高等学校・泉町二丁目商店街振興組合始め諸組織との間で連携を拡大
・茨城大学「地(知)の拠点整備事業(COC)」に
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/
採択される
・「産業界ニーズ事業」補助金交付期間終了
・常陸太田市による予算補助打ち切り
・協力隊(第二期)域学連携担当者退任

11

2015年度プロジェクト実習B 発足時(2011年度)との差異

	終了・退任・消滅	継続・拡充・新設
人	1. 蜂屋准教授 2. 里美地区地域おこし協力隊 域学連携担当者ポスト	1. 地域の方々のご支援 2. 市役所からのご支援 3. 新たなパートナー 4. 学生の意欲
予算	3. 産業界ニーズ事業補助金 4. 市役所からor市役所経由の 各種補助金	5. COC事業補助金(毎年申請) 6. 大学による補助金(毎年申請) 7. 学生の独自申請による補助金
施設等		8. 公共施設等使用時のご支援 9. 交通手段確保のご支援

不安

12

授業改善への取組(1)

これが必要！① 履修目的の明確化

(1)自己の現状分析：
 ・「根力構成要素ルーブリック」記入
 ・マインドマップ作成&学生間意見交換

(2)取組対象の研究：
 ・PJ提案者との直接面談(質問票作成)

(3)選択理由成文化：
 ・取組希望PJとその理由

(4)履修目的明確化：
 ・「個人の達成目標ルーブリック」作成

13

授業改善への取組(2)

これが必要！② 課題発見技法の実践学習

(1)役割の自覚：
 ・事例シナリオ学習(「最悪の状況」を演出)

(2)課題発見技法(A)：
 ・ブレインストーミングとKJ法

(3)課題発見技法(B)：
 ・ブレインストーミングとKJ法でチーム活動構想立案

**2015年度プロジェクト実習
冒頭に組み込み**

14

主な追加教材

—お手元の資料をご覧ください—

1. 根力の構成要素ルーブリック
2. マインドマップ解説書
3. 個人の達成目標ルーブリック
4. 事例シナリオと課題(雛形)
5. ブレインストーミングとKJ法解説

15

**4年間にわたる
皆様のご支援に
心より感謝
申し上げますと共に
今後とも、どうぞ宜しく
お願い申し上げます**

16

2つの報告会 それぞれのコンセプト

- 1.プロジェクト実習・全体報告会
茨城大学水戸キャンパス(12/12)
「学び」の内容を前面に、大学内外に
- 2.プロジェクト実習B現地報告会
里美学習センター(本日)
チームの具体的な活動内容と感謝の意
を前面に、現地の方々に

17

ご清聴感謝申し上げます

鈴木 敦
atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

18

根力の構成要素ルーブリック

根力の構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	難解で長大な文章でも、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、ほぼ最後まで読み通し、筆者の主張をある程度まで理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない。たとえ読み通せても、筆者の主張を理解・分析することができない
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験は無い	特定のテーマについて、短い文章を書くことができる。論理的な思考・分析や、必要な資料をルールを踏まえて提示することには難がある	「つぶやき」的に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、マニュアルを参照しながら自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判をコミュニケーションの機会と受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平静心で答えられる	親しい人たちとの気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンはできない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが乱れがちである。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせない(うっかり忘れる)ことがある	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常々確実に遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に違えることがある	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、しばしば遵守できない	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、遵守できない
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を広汎かつ有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のありかも情報を入手するための新たなルートの開拓方法も把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報を入手するための新たなルートを開拓する方法は分からない	生活を送る上で必要な情報のありかが分からない。どうすれば情報を入手できるかも分からない
3 行動力	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要などが無くとも、自らの定見・計画に基づき、自主的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない。或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちである
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さや粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないこともままある	目的を設定できない。あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの定見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応する	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまいがちである
4 思考力	課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追及することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	解決の為のプロセス案を複数用意でき、最善の物を選んで解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、チーム活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、個人活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの道筋を構想できる	解決の為のプロセスを立案することができない。或いは、立案はできるが解決までの道筋を構想できない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭的確な対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考えるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応策を描けない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考える必要性は認識しているが、明確なイメージを描けない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない。またイメージする必要性を自覚しない
	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にできるが、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われて、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
5 チームワーキング能力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化的背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・話法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しても、明確な内容・話法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・話法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・話法で伝えることができない
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になんて考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場への違和感が強く、アドバイスを受け入れることに抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則は勿論、チーム内での取り決め等についても、決められたことは不本意でも遵守する。高い倫理観を持ち、自ら公平公正に努める	法令・規則・チーム内の取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内の取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めも遵守できない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えたり気晴らしをすることはできず、不満を蓄積させる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気晴らしの方法もなく、終始イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気晴らしの方法もないため、終始イライラして攻撃的になる

個人の達成目標ルーブリック

学籍番号:

氏名:

(1) 根力の構成要素	(6) 比重	(3) 卒業時の理想像	(5) 2015年度末にできればここまで達成したい	(4) 2015年度末にここまででは達成したい	(2) 現状

*** 2015年度のプロジェクト実習の履修を始めるに当たり、現状と年度末の達成目標を文字にして確認しておきましょう**

- (1)の水色部分に、根力の構成要素ルーブリックで選んだ「プロジェクト実習履修を通じて強化したい項目」をコピーして下さい
- (2)の黄色部分に、自分の現状を記して下さい。**根力の構成要素ルーブリックの文言を踏まえつつ、自分の言葉で記して下さい**
- (3)の黄色部分に、「2015年度末での実現可能性」とは一切関係なく、「卒業時に、こうなれたら理想・こうなることが目標」という姿を記して下さい
- (4)の黄色部分に、「2015年度末には、ここまでは実現したい」という事柄を記して下さい(ハードルが高くなりすぎないように設定するのがコツです)
- (5)の黄色部分に、「2015年度末に、できればここまで実現したい」という事柄を記して下さい(ちよっと大変だけれど、頑張れば何とか・・・というレベルを設定するのがコツです)
- (6)の桃色部分に、それぞれの項目にかかる比重を100になるように記して下さい(例えば、上から順に「60」「30」「10」という具合にメリハリをつけるのがコツです)

*** 黄緑部分は、年度末のリフレクションで使用します。当面、空欄にしておいて下さい**

事例シナリオ学習の運用と教材の作成

事例シナリオを用いた授業は、プロジェクト実習A～Dの履修学生が一堂に会し、「事例シナリオ」を読んで、「事例シナリオ課題1～4」（以下に収載）に取り組み、最終的に「履修者全員としての答案」を作成するという内容です。

具体的な授業は、以下の手順で進めます。

- (1) 教員側は、プロジェクト実習A～Dそれぞれに合わせて4種類のシナリオ（＝「事例シナリオA」「同B」「同C」「同D」と、A～Dに共通の「事例シナリオ課題」を1種類準備する
- (2) 学生は、自らの履修するカテゴリのシナリオを選択する
- (3) その上で「事例シナリオ課題」への「個人としての解答」を作成する
- (4) (3)を、プロジェクト実習A～Dのカテゴリごとにグループを組んで議論し、「グループとしての解答」を作成する
- (6) その上で、プロジェクト実習A～Dのカテゴリを越えて、それぞれの「グループとしての解答」を共有・議論し
- (7) 最終的に、「プロジェクト実習履修者全体としての解答」を作成・共有する

意図する所は

- (1) プロジェクト実習履修者がこれから遭遇するであろう状況を、デフォルメされたキャラクターで構成されたシナリオで疑似体験させ
 - (2) チームメンバーそれぞれの個性を分析し
 - (3) チーム活動において、個性を異にするメンバーそれぞれの「あるべき姿」を考えさせ・議論させ
 - (4) 議論の結果と自らの姿を対比させることで、今後、現実の活動の中で自らが採るべき行動・言動について「あるべき姿」を自覚させる
- 所にあります。

このため、教員が準備する4種類の事例シナリオには

- (1) シナリオ中で示される具体的な問題状況は、プロジェクト実習A～Dそれぞれの状況を踏まえた・履修者にとって実感が持てる内容である
- ことが必要であると同時に
- (2) 登場人物のキャラクターや、発生する問題が統一的に定義されている
- ことが必要となります。

以上のことから、今年度の「事例シナリオ」は

- (1) 学生A～D並びに課題提案者Z氏のキャラクターを設定し、「プロジェクト実習B（地域連携・地域貢献）」で想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオB」（次頁に収載）を作成し
 - (2) 事例シナリオBを雛形とし、「プロジェクト実習A（総合）」「同C（国際交流異文化理解）」「同D（PBL型インターンシップ）」それぞれで想定される問題状況を念頭に、「事例シナリオA」「同C」「同D」を作成する
- という手順で作成しています。

事例シナリオB

「奥山カボチャのブランド化」

* Zさん：生産者代表。過疎・高齢化に悩む、奥山村青年団長・55歳。現状への危機感と奥山カボチャを活用した改善策への意欲はあるが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：奥山カボチャは、奥山村の在来種でとてもおいしいカボチャです。これをブランド化して村の活性化に繋げたい。いいプランを考えてください。

A：地味～。それに俺、カボチャ嫌いなんだよなー。

B：村おこしにご当地産品か。よくあるパターンだな。

C：ジェラートとかあ～コロケとかあ～・・・お酒にはできないのかな？かわいいゆるキャラ作りたーい♥。

D：よし、じゃあさっそくゆるキャラのデザインを描いてみよう！

A：だりい～。カボチャ臭え酒なんて飲みたかねえ～。

C：かわいいゆるキャラの着ぐるみでえ～、ジェラート売ったらあ～、きっと女の子に人気が出るよお～。おしゃれなお店でえ～、イケメンのソムリエさんがいてえ～、ゆるキャラのコスプレでえ～、カボチャワインをテイastingなんかしてくれてえ～♥

A：それって、おもいっきしシュールじゃね？

B：そもそも「奥山カボチャ」って何なんだ？在来種でおいしいって言われたって、見たこともないし。それに「村おこし」って言ったって、実際の所は何も知らないし。

D：早速ググろう！え～と、まずは「奥山」「カボチャ」「在来種」っとお！

A：そんな検索じゃ、欲しい情報なんて出てこねえんじゃね？俺やるわあ。かしてみ。

C：じゃあ私、カボチャプリンの試作してみるね～♥

B：いや、そうじゃなくて！一口にブランド化って言っても色々なんだから、まずはゴールの具体像を考えなきゃ。そうさ、Zさんはどういう基本戦略をお考えなんですか？

Z：いや、なんにも。奥山カボチャが高く売れて、奥山村が有名になったらええなあ・・・

B：ご当地産品で村おこして、いろいろ先行事例もありますよね。うまくいってないケースも多いんじゃないですか？その辺は・・・

Z：いやあ～・・・わがんね。

A：調べたの、ここ置いとくぜー。俺、バイトあつから先帰るわあー。

D：こらっ、待てえ！みんな協力して取り組めって言われてっだろ！

A：バ～イ

B：へー、短時間でよくここまで調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？

D：よし、B。お前リーダーやれ。ほら、あるだろ。プレーンストーブとか何とか言うの。

B：ブレインストーミング！でも僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。

D：くおらあ！口先だけかあっ！！

事例シナリオ課題

- (1) 課題1・3・4は、課題文の直下に記入して下さい。必要に応じて行を追加して下さい。
- (2) 課題3は、シナリオに赤字で直接書き加えて下さい。
- (3) 5/28・13:00までに、レナンディ「課題02 事例シナリオ解答」に提出して下さい。
- (4) 5/29の授業に、プリントアウトを一部持参して下さい（「文字カウントの仕方」部分は不要）。

課題1

シナリオA～Dの中から、自分の所属カテゴリに相当するものを選び、登場人物A・B・C・Dの、それぞれのキャラクター（「良い所」と「悪い所」の両方）を、下記の例を参考に<ごく簡潔に>記して下さい。

<例>

X：良い所：目配り・気配りが得意で名サポーター。

悪い所：引っ込み思案で積極性に欠ける。

課題2

あなたのキャラクターを念頭に「登場人物 E」を設定し、「自分だったら、多分無意識にこういう行動・言動をとるだろう」（＝現状の自己分析）という内容を、このシナリオに3～4箇所、書き加えて下さい。

→選択したシナリオの当該箇所に空白行を設け、赤字で書き込んで下さい。

→シナリオには、予め1頁当たり4～6行の余裕が設けてあります。文言を工夫して、できるだけ1頁に収まるように記して下さい。

課題3

あなたがこのチームの第5のメンバーで、かつリーダーに選出され（てしまっ）たとします。「奥山カボチャのブランド化」という課題に、このチームを率いてどのように取り組んで行きますか？

→この下に、黒字で記入して下さい。長さは自由です。

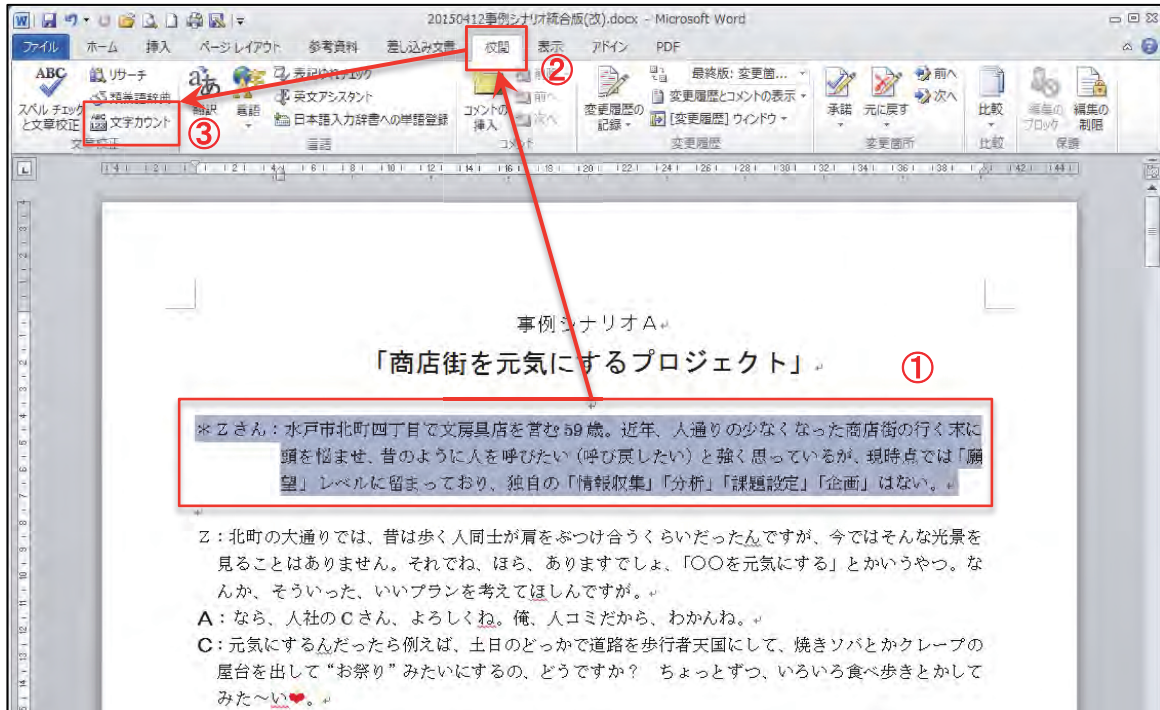
課題4

あなたが今後このチームの有力な戦力として課題に取り組んでいくためには、どういう風に行動していくべきか（＝行動目標）を、先に規定した「この授業で高めたい根力（ねぢから）構成要素」に即して、またあなたがチーム内で実際に担う役割（リーダー・サブリーダー・書記・会計・渉外・・・等）を踏まえて、400字程度にまとめて下さい。

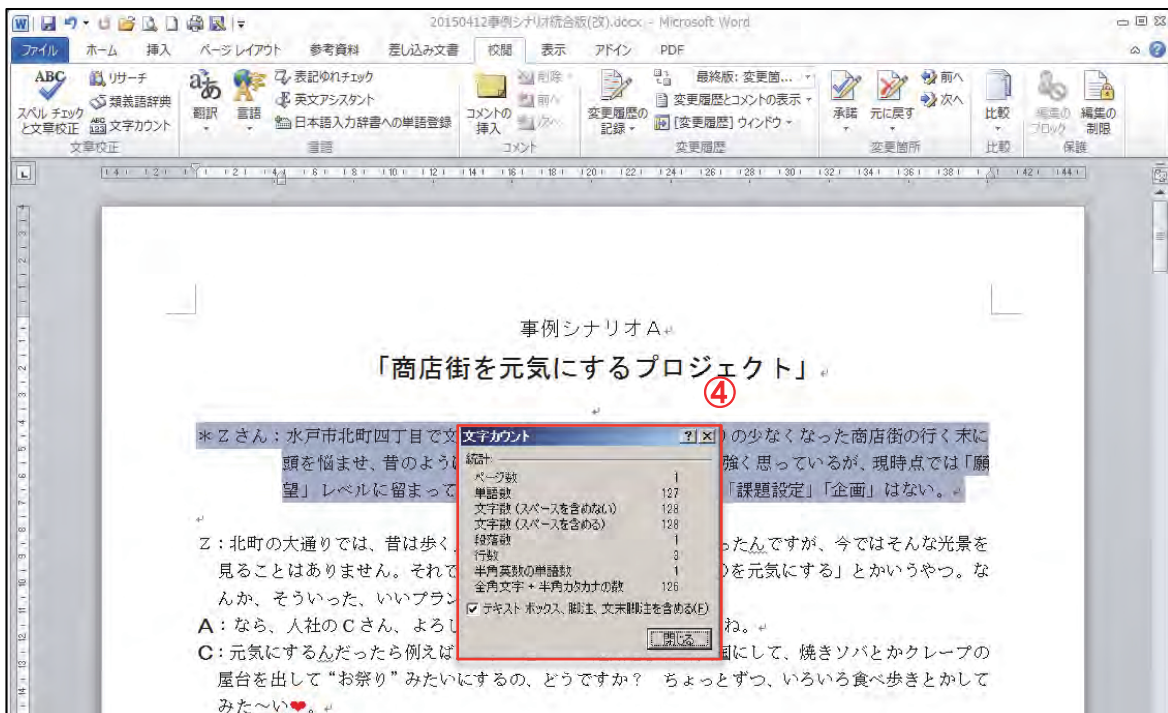
→この下に、黒字で記入して下さい。文字カウントの方法については、最終頁を参照して下さい。

文字カウントの仕方

- ①カウントしたい部分を範囲指定する
- ②「校閲」のタブをクリックする
- ③「文字カウント」をクリックする



- ④範囲指定した部分の文字数が表示される



*①で範囲指定を忘れると、「文書全体の文字数」がカウントされてしまいます。注意して下さい。

ブレインストーミング（BS）と KJ 法の心得

1 : BS はアイデア出し。

難しいことは考えず、とにかく質より量で発言する。

大脳はお休みさせて本能と感性の赴くままに「垂れ流す！」

そのために

(1) 質より量：一言でも多く発言する

(2) 自由奔放：他人の目を気にしない。変な見栄や遠慮は NG

(3) 尻馬推奨：他人の意見を踏まえて「さらにこんなことも・・・」というアイデアを出す

(3) 批判厳禁：BS はひたすらアイデアを出す場面。議論の場ではない。批判は(1)～(3)の

障害となり、BS 全体の意義を損なうので厳禁！！

2 : KJ 法は構想の取りまとめ。BS とは打って変わって大脳全開！

第 1 ステップ：カードをばらばらに広げる。

第 2 ステップ：関連性のあるカードを重ね、見出をつける。

第 3 ステップ：第 2 ステップで作った小グループの見出を眺めながら、親近性のあるグループをより大きなグループへとまとめていく。

第 4 ステップ：グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替える。→配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、のがコツ。

第 5 ステップ：大グループごとに、中身を検討。

第 6 ステップ：完成形を記録（写真等）

第 7 ステップ：記録を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要／やりたいと思うかを議論。（上位 3～5 件を選出する投票も有効）合意形成へ。

KJ 法の手順

(川喜田二郎『発想法』中公新書、1967年；『続・発想法』中公新書、1970年)

第1ステップ：

まず、BS等の手法で作られたたくさんのカードをばらばらに広げてみます。

第2ステップ：

カードに記載された「1行見出し」を眺めながら、関連性のあるカードを重ねていきます。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出し＝「表札」をつけて上に載せます。その上で、それぞれのグループのカードを輪ゴムで束ねます。

*第2ステップの作業では、以下の点に注意して下さい。

- ・1グループのカードは最初は数枚程度。はじめから大きくまとめようとしない。
- ・1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしない。

第3ステップ：

第2ステップで作った小グループの「表札」を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめます。この作業を何度かくりかえし、10近くの大グループにまとまったらグループ化作業は終了です。

大グループにも表札をつけますが、グループ分けがすべて終わってからというのではなく、カード全体の3分の2程度がまとまってきたところで、グループ分け作業と並行して表札作りを進めて下さい。

第4ステップ：

ここからいよいよ論理的整序の段階に入ります。グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替えます。「空間配置」と呼びます。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツです。

第5ステップ：

空間配置ができれば、カード束の間隔を広げ、それぞれ1段下の段階までほぐしてみます。その上で、もとのグループの範囲内で、ただし隣接する大グループ（およびその1段下の束）との親近性に注意しながら中グループレベルの空間は一を行います。これでカードの作業は終了です。

第6ステップ：

カードで作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップです。その際、上の図のように、グループ間の関連の内容を示す記号を使って、空間配置の論理連絡が分かるようにします。たとえば次のような記号を使います。

第7ステップ：

いよいよ最後のステップです。図を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要と思うか、各自最高5点から1点の順で点数をつけます（6番目以降は点数をつけない）。総得点が最も高い5つのグループをゼミでのグループ研究のテーマとします。研究にあたっては、KJ法によってえられた中テーマ等が主要な研究項目となるでしょうし、また図解の「因果連関」も重要な指針を与えてくれるでしょう。

事例シナリオの構造

1：キャラクターは、分かりやすくデフォルメする。

(1)提案者は、「独自の構想を持っていない」キャラクターに設定する。

(2)プロジェクトメンバー4名は、良くも悪くも個性的で協調性に乏しいキャラクターに設定する。

→提案者は丸投げ状態、プロジェクトメンバーは協調性なしという悪条件下で、対応を考えることが学びに繋がる。

2：まずプロジェクト実習 A～D のいずれかのカテゴリに基づく話題でシナリオを作成し、これを雛形としてそれ以外のカテゴリ用に同一構造・同一キャラで話題を差し替えたシナリオを作成する。

→異なるシナリオを選択した学生間でも、違和感なく議論が成り立つようにする。

[雛形（今回はプロジェクト実習 C に基づき作成）]

事例シナリオC

「学外者を巻き込んだ国際交流イベント」

*Zさん：水戸第六中学校長。59歳。自校の教育の国際化に熱心。大学生・留学生と中学生の交流の場を設けて、中学生を「海外」「異文化」に目覚めさせたいと強く思っているが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：中学生は海外といっても実感がありません。貴学の留学生や留学経験者と交流の場を作って、我が校の教育の国際化を進めたい。いいプランを考えてください。

A：海外とか興味ね～。言葉通じねえとかったるいんだよね～。

B：留学生や留学経験者との交流で疑似海外体験か。よくあるパターンだな。

C：ピンゴとかぁ～クイズとかぁ～・・・いろいろな国のお料理を作れないかな？かわいい民族衣装、着てみた～い❤️。

D：よし、じゃあさっそく会場を押さえよう！

A：だりい～。ガキンチョ集めてチーパッパなんて、やってらんね～。

C：かわいい民族衣装でえ～、留学生のお国自慢料理を出してもらったらぁ～、きっと女の子は大喜びだよぉ～。夕方になったらライトアップしてえ～、お国別にパレードやってえ～❤。

A：お～い、Cが一人でTDL行っちゃってるぜえ～。

B：そもそもここで言う「国際化」って何なんだ？経産省じゃないんだからWASP標準にすり寄ることじゃないよな。それに茨大の留学生は中・韓・マレーシアが御三家だろ。

D：早速ググろう！え～と、まずは「中学」「留学生」「国際化」っとお！

A：そんな検索じゃ、欲しい情報なんて出てこねえじゃね？俺やるわぁ。かしてみ。

C：じゃあ私、留学生の友達を誘ってくるね～❤

B：いや、そうじゃなくて！第一に、この催しでどういう成果が上がればZさんの課題に答えられたことになるんだろう？それと留学生に協力してもらう以上、彼らにもメリットがなくちゃいけないし・・・そうだ、Zさんはどういう流れをお望みなんですか？

Z：え？・・・いや、その、留学生と交流すれば国際化が進むだろうなあと・・・

B：交流会の前と後に、中学側ではどんな授業をお考えですか？

Z：いやぁ・・・先生方も忙しいから・・・

A：調べたの、ここ置いとくぜー。俺、バイトあつから先帰るわぁー。

D：こらっ、待てえ！みんなで協力して取り組めって言われてっだろ！

A：バ～イ

B：へー、短時間でよくここまで調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？

D：よし、B。お前リーダーやれ。ほら、あるだろ。ブレインストーブとか何とか言うの。

B：飛行機にはエアコンが付いてるからストーブはいらないよ。ブレインストーミング！でも僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。

D：くおらぁ！口先だけかぁっ！！

[プロジェクト実習A用]

事例シナリオA

「商店街を元気にするプロジェクト」

* Zさん：水戸市北町四丁目目で文房具店を営む59歳。近年、人通りの少なくなった商店街の行く末に頭を悩ませ、昔のように人を呼びたい(呼び戻したい)と強く思っているが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：北町の大通りでは、昔は歩く人同士が肩をぶつけ合うくらいだったんですが、今ではそんな光景を見ることはありません。それでね、ほら、ありますでしょ、「〇〇を元気にする」とかいうやつ。なんか、そういった、いいプランを考えてほしいんですが。

- A：じゃ、人社のCさん、よろしくね。俺、人コミだから、わかんね〜。
- C：土日のどっかで道路を歩行者天国にして、焼きソバとかクレープの屋台を出して“お祭り”みたいにするの、どうですか？ ちょっとずつ、いろいろ食べ歩きとかしてみたい♥。
- D：いいんじゃない？ 一丁目から四丁目まで、屋台は何軒、並ぶだろ？

- B：イベントで中心市街地活性化か。よくあるパターンだな。
- A：だりい〜 屋台ってさ、準備がたいへんそうじゃね？
- D：だいじょうぶよ。サークルで学園祭の時にやったんだ。みんなうよ。
- B：ちょっと待って。屋台はさ、僕らが出すんじゃないよ？ 商
んじゃないかな？ それに、・・・

- D：じゃ、ググってみるね！ え〜と、「イベント」「屋台」「活性化」
- A：そんな検索じゃ、ダメなんじゃね？ 俺やるわあ。かしてみ。
- C：じゃあ私、北町商店街にお店が何軒あるか、調べてくるね。弟
- B：いや、あのさ、それもいいけど、「元気にする」方法はイベントと何か、あるはず。Zさん、そうですね？

- Z：え？ ええ、まあ・・・そうですね、きっと・・・
- B：この種のイベントって、いろいろ先行事例もありますよね。中
多いんじゃないですか？ その辺は・・・
- Z：いやあ〜、それはちょっと・・・よくわからなくて・・・

- A：調べたやつ、こ
- D：ちょっと待ちな
- ちやった。
- B：へー、Aくん、短
て。まずは情報の共有
- C：こないだ、なんか
- B：KJ法、か？ カ
- D：あ、それ、いいね
- B：え、だめだよ、僕
- D：え〜、なに、それ

事例シナリオD

「フェスティバルを成功させるプロジェクト」

* Zさん：水戸市役所につとめる中堅職員。毎年行っている市主催の「〇〇フェスティバル」の担当を引き継いだものの、現時点では前任者から単に仕事を引き継いだレベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：今年度も水戸市主催の「〇〇フェスティバル」をやらなければならぬのですが、皆さんに、これはどう、よいプランを考えてほしいんですが。

- A：なら、人社のCさん、よろしくね。俺、そんなことを考えるのは苦手だから。
- C：「フェスティバル」だったら、例えば、物売るとか、食べ物、飲み物など、例えばスイーツ屋台を出して“お祭り”みたいにするの、どうですか？ そんなフェスティバルだったら皆な参加するんじゃない？
- D：いいんじゃない、楽しそうだから、やろう、やろう。
- B：食べ物、イベントで活性化か。よくあるパターンだな。
- A：でもそういうのって、準備がたいへんそうじゃね？
- D：だいじょうぶよ。サークルで学園祭の時にやったことあるから。みんなできやれば、あつという間にできちゃうよ。
- B：ちょっと待って。屋台はさ、僕らが出すんじゃないよ？ 団体の方が自己紹介を兼ねて出すんじゃないかな？ それに、・・・
- C：ググってみるね！ え〜と、「フェスティバル」「団体」「活性化」っと！
- A：そんな検索じゃ、ダメなんじゃね？ 俺やるわあ。ちょっと貸してみ。
- D：じゃあ私、どんな団体が参加してくれそうか、前回の事を調べてくるね。楽しみ〜♥
- B：いや、あのさ、それもいいけど、フェスティバルって何ができれば成功かっていうのを先ず考えるべきじゃないですか、Zさん、そうですね？
- Z：え？ ええ、まあ、そうですね、きっと・・・
- B：先行事例、って言うんですが、どこかの都市でもフェスティバルってのは、やっていると思うんですが、それに成功した所って、例えばどこでしょう？
- Z：え？ いやあ〜、それが分かれば苦労はないんだけど・・・
- A：あ、俺、バイトの時間だから、お先〜。
- D：ちょっと待ちなさいよ！ 次のミーティングの予定とか・・・あ、行っちゃった。
- C：へー、Aくん、短い時間でよく調べたね・・・〇〇市のマップ？ 何だろ、これ？
- D：あ、何かいろいろ、あるね。じゃ、先ずはこれ、みんなにも送るね。
- B：情報の共有は必要だね。あとでこれを基に、みんなで整理してみよう。
- C：こないだ、なんか授業でやったね。なんだったっけ？
- B：KJ法だろう。
- D：じゃ、やろう。先ずカードを用意しなくちゃね。

[プロジェクト実習B用]

事例シナリオB

「奥山カボチャのブランド化」

* Zさん：生産者代表。過疎・高齢化に悩む、奥山村青年団長・55歳。現状への危機感と奥山カボチャを活用した改善策への意欲はあるが、現時点では「願望」レベルに留まっており、独自の「情報収集」「分析」「課題設定」「企画」はない。

Z：奥山カボチャは、奥山村の在来種でとてもおいしいカボチャです。これをブランド化して村の活性化に繋げたい。いいプランを考えてください。

- A：地味〜。それに俺、カボチャ嫌いなんだよな〜。
- B：村おこしにご当地産品か。よくあるパターンだな。
- C：ジェラートとかあ〜コロッケとかあ〜・・・お酒にはできないのかな？かわいいゆるキャラ作りたーい♥。
- D：よし、じゃあさっそくゆるキャラのデザインを描いてみよう！
- A：だりい〜。カボチャ臭え酒なんて飲みたかかね〜。
- C：かわいいゆるキャラの着ぐるみでえ〜、ジェラート売ったらあ〜、きっと女の子に人気が出るよお〜。おしゃれなお店でえ〜、イケメンのソムリエさんがいてえ〜、ゆるキャラのコスプレでえ〜、カボチャワインをテイスティングなんかしてくれてえ〜♥

- ユーレじゃね？
- て何なんだ？ 在来種でおいしいって言われたって、見たこともないし。たつて、実際の所は何も知らないし。
- ずは「奥山」「カボチャ」「在来種」っとお！
- 報なんて出てこねえんじゃね？ 俺やるわあ。かしてみ。
- の試作してみるね〜♥
- コにブランド化って言って色々なんだから、まずはゴールの具体像を
- はどういう基本戦略をお考えなんですか？
- チャが高く売れて、奥山村が有名になったらええなあ・・・
- いろいろ先行事例もありますよね。うまくいってないケースも多いん
- ・・・
- 一。俺、バイトあつから先帰るわあ〜。
- 協力して取り組めって言われてっだろ！

- で調べたな。まずはこれで情報共有から始めようか？
- れ。ほら、あるだろ。ブレンストープとか何とか言うの。
- も僕は知的分析者だ。リーダーなんて勘弁してくれ。
- ！！

[プロジェクト実習D用]

ブレインストーミングとKJ法(1/2縮小)

ブレインストーミング (BS) と KJ 法の心得

1: BSはアイデア出し。

難しいことは考えず、とにかく質より量で発言する。

大脳はお休みさせて本能と感性の赴くままに「垂れ流す！」

そのために

- (1) 質より量：一言でも多く発言する
- (2) 自由奔放：他人の目を気にしない。変な見栄や遠慮はNG
- (3) 尻馬推奨：他人の意見を踏まえて「さらにこんなことも・・・」というアイデアを出す
- (3) 批判厳禁：BSはひたすらアイデアを出す場面。議論の場ではない。批判は(1)~(3)の障害となり、BS全体の意義を損なうので厳禁！！

2: KJ法は構想の取りまとめ。BSとは打って変わって大脳全開！

- 第1ステップ：カードをばらばらに広げる。
- 第2ステップ：関連性のあるカードを重ね、見出をつける。
- 第3ステップ：第2ステップで作った小グループの見出を眺めながら、親近性のあるグループをより大きなグループへとまとめていく。
- 第4ステップ：グループ間に論理的な関連性ができよう大グループのカードの束を並べ替える。→配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでやべれるようにする、のがコツ。
- 第5ステップ：大グループごとに、中身を検討。
- 第6ステップ：完成形を記録(写真等)
- 第7ステップ：記録を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要／やりたいかと思うかを議論。(上位3~5件を選出する投票も有効) 合意形成へ。

KJ法の手順

(川喜田二郎『発想法』中公新書、1967年；『続・発想法』中公新書、1970年)

- 第1ステップ：
まず、BS等の手法で作られたたくさんカードをばらばらに広げてみます。
- 第2ステップ：
カードに記載された「1行見出し」を眺めながら、関連性のあるカードを重ねていきます。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出し＝「表札」をつけて上に載せます。その上で、それぞれのグループのカードを輪ゴムで束ねます。
 - * 第2ステップの作業では、以下の点に注意して下さい。
 - ・1グループのカードは最初は枚数程度。はじめから大ききまとくめようとしなさい。
 - ・1枚のまま残る「一匹オオカミ」があったりもかまわない。無理に他のグループと一緒にしない。
- 第3ステップ：
第2ステップで作った小グループの「表札」を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめてみます。この作業を何度かくりかえし、10近くの大グループにまとまったらグループ化作業は終了です。
大グループにも表札をつけますが、グループ分けがすべて終わってからののでなく、カード全体の3分の2程度がまとまってきたところで、グループ分け作業と並行して表札作りを進めて下さい。
- 第4ステップ：
ここからいよいよ論理的整理の段階に入ります。グループ間に論理的な関連性ができよう大グループのカードの束を並べ替えます。「空間配置」と呼びます。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでいじやべれるようにする、というのがコツです。
- 第5ステップ：
空間配置ができたら、カード束の間隔を広げ、それぞれ1段下の段階までほぐしてみます。その上で、もとのグループの範囲内で、ただし隣接する大グループ(およびその1段下の束)との親近性に注意しながら中グループレベルの空間は一を行います。これでカードの作業は終了です。
- 第6ステップ：
カードで作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップです。その際、上の図のように、グループ間の関連の内容を示す記号を使って、空間配置の論理連絡が分かるようにします。たとえば次のような記号を使います。
- 第7ステップ：
いよいよ最後のステップです。図を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要と思うか、各自最高5点から1点の順で点数をつけます(6番目以降は点数をつけない)。総得点が最も高い5つのグループをゼミでのグループ研究のテーマとします。研究にあたっては、KJ法によってえられた中テーマ等が主要な研究項目となるでしょうし、また図解の「因果連鎖」も重要な指針を与えてくれるでしょう。

プロジェクト実習
初年次PBL試行

鈴木 敦 [atsushi.suzuki.
8115@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp)

1

二種類のPBL

1:精製型

2:化学反応型

2

1:精製型

専門性追求型のPJ
単一大学 → 単一学部
→ 単一学科 → 単一ゼミ

3

2:化学反応型

多様性追求型のPJ
複数ゼミ → 複数学科
→ 複数学部 → 複数大学

4

プロジェクト実習の設計は
化学反応型

茨城大学＋常磐大学
＋茨城キリスト教大学
＋水戸農業高等学校

5

大学ベースでの
現実とは・・・

茨大人文学部学生
主体

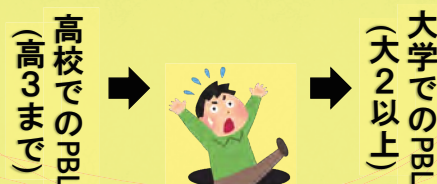
6

茨大内部
キャンパス間の距離

三大学間
キャンパス間の距離
+
単位互換受講のメンドウさ

7

高校—大学間
初年次向けPBL授業の欠落



8

初年次PBL試行

- ・ 全員水戸キャンパス
- ・ 5学部で「化学変化」期待
- ・ 夏季集中で負荷軽減
- ・ 予算支援
- ・ 単位なし

9

設計モデルは

山形大学・初年次向けPBL

フィールドワーク
共生の森 もがみ

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/yam/mogami/07.html>

10

お手元の
資料を
ご覧下さい

11

- 1:事前学習
- 2:フィールドワーク
- 3:振り返りと
レポート

12

事前学習



- ・個人の達成目標ルーブリック
- ・現地講師によるレクチャー (於:茨城大学)
- ・フィールドワーク時における各人の課題

13

フィールドワーク(1)



14

フィールドワーク(2)



15

フィールドワーク(3)



16

フィールドワーク(4)



ご指導・ご支援
ありがとうございます
ございました！

17

振り返りとレポート



- ・個人の達成目標ルーブリック完成
- ・アンケート回答
- ・レポート作成

18

検討課題(1)

- 予算の安定確保
- FWVの時期
- 効果的な広報
- キャパ

19

検討課題(2)

- 授業の位置づけ
- 授業の内容
- 評価の客観性
- 安定的運営体制

20

お世話になりました
たくさんの方々に
心より
感謝申し上げます

21

ご清聴いただき
ありがとう
ございました

鈴木 敦 atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

22

2015年度
プロジェクト実習B夏合宿
初年次PBL試行
参加者のしおり



OSATO-CHAN

常陸太田市里美地区

2015年9月28-29日

1. 参加者名簿

(1) 現地講師の皆様（ご登壇順）

- 白石栄里 様（常陸太田市役所里美支所統括）
 豊田紀雄 様（里美ふるさと振興公社総括支配人）
 荷見 誠 様（里川カボチャ研究会会長）
 後藤武巳 様（里美捕獲隊）
 鈴木 修 様（里美捕獲隊）

(2) 学生

プロジェクト実習B メンバー

大 チーム	小 チーム	担 当	分 担	学 年	学 生 番 号	M F	氏 名	履 修 区 分	カナ氏名	学 部	学 科	乗 降 地
さとみ・あい	さとみ力伝え隊	主：鈴木敦 副：神田大吾		4	[REDACTED]	F	千葉美香	BM	チバミカ	人文	人コミ	銀杏坂
				4		F	星野由季菜	BM	ホシノユキナ	人文	人コミ	大学
				4		F	井上紗希	BM	イノウエサキ	人文	社会	市役所
			渉外	3		F	南陽子	BL	ミナミヨウコ	人文	社会	市役所
			長	3		F	箭内淳美	BL	ヤナイアツミ	人文	社会	大学
			会計	3		F	山口奈穂	BS	ヤマグチナオ	人文	社会	
			3	F		山口未来	BS	ヤマグチミク	人文	社会	大学	
			3	F		山田真理子	BS	ヤマダマリコ	人文	社会		
			2	M		大枝俊貴	BS	オオエダトシキ	人文	人コミ	大学	
			2	M		鈴木透	BS	スズキトオル	人文	人コミ		
			2	F		小林希望	AS	コバヤシノゾミ	人文	社会		
			2	F		助川実咲	BS	スケガワミサキ	人文	社会		
	泉美・ゆう											

初年次PBL試行 メンバー

		鈴木敦		1	[REDACTED]	F	大里智華		オオサトチハル	人文	社会	大学
				1		F	木村帆南		キムラホナミ	人文	社会	大学
				1		M	佐藤豊大		サトユウト	人文	社会	大学
				1		M	林 翔太		ハヤシショウタ	工学	機械 工学	大学
				1		M	上野瑛永		ウエノテルヒサ	工学	電気電子 工学	大学

(3) 教員

鈴木敦・神田大吾

2. スケジュール

9月28日(月)

- 8:45 茨大正門発
9:05 银杏坂発
9:45 常陸太田市役所発
10:15 大中着
*会計手続き等
- 10:30 ガイダンス(里美ふれあい館 TEL:0294-70-7131) [1時間]
*スケジュール確認&諸注意(鈴木敦)
*常陸太田市里美地区概要(白石栄里様)
*里美ふるさと振興公社の取り組み概要(豊田紀雄様)
→里美牛のブランド化と耕作放棄地対策を兼ねたエサ米生産
→有機栽培と販売戦略
→イノシシ問題(主として駆除の観点から)
- 等
- 11:30 移動&昼食(荷見誠様宅・昼食代は奥様のお手製お弁当を500円でお願ひしています)
13:30 午後の活動(荷見様宅・里川地区) [2時間30分]
*里川カボチャのレクチャー(荷見誠様)
→在来種復元の取り組み・里川カボチャ研究会・耕作放棄地対策
→イノシシ被害と対策の実際(主として防護の観点から)
*商品化の取り組み(プロジェクト実習B「チームさとみ・あい」メンバー)
→水農との連携・里川カボチャ焼酎
*畑見学(荷見様)
→農事暦と作業の実際
→メッシュ柵&電気柵によるイノシシ対策等
→可能であれば農作業のサワリ体験(除草?)
*里川地区の里川カボチャ生産地&耕作放棄地見学(荷見様)
- 等
- 16:00 プラトー里美(<http://www.satomiful.jp/plateau/> TEL:0294-82-4221) 着
*この時点でバスは水戸へ
*分室・入浴等
- 17:30 夕食&情報交換(プラトー里美) [1時間30分]
*荷見様・豊田様並びに地元猟友会の後藤武巳様・鈴木修様にご一緒戴き、夕食を共にしながらの振り返り・情報交換
- 19:00 個々人の振り返り(プラトー里美) [1時間]
20:00 解散・以後自由
22:00 就寝

9月29日（火）

*希望者は早朝散策（鈴木敦）

7:30 朝食

9:30 午前の活動（プラトー里美・里美牧場）[計1時間30分]

*里美牧場とプラトー里美に関するレクチャー（豊田様）

→プラトー里美の施設見学・利用状況等データ

→里美牧場における飼育～出荷体制

→現有体制・施設と旧体制・施設からの改善点

等

10:30 プラトー里美発（豊田様）

*牧場見学

→諸施設見学

*飼料米生産田&関係施設見学

12:30 昼食（うぐいすの里 TEL：0294-82-2980 で各自注文。昼食代は数百円～）

<http://www.kanko-hitachiota.com/wp/hitachiota/leisure/%E4%BD%93%E9%A8%93/%E9%87%8C%E7%BE%8E%E8%A6%B3%E5%85%89%E8%BE%B2%E5%9C%92%E3%81%86%E3%81%90%E3%81%84%E3%81%99%E3%81%AE%E9%87%8C/>

*うぐいすの里見学

13:30 午後の活動 [大中地区・2時間30分]

①里美牛関係施設見学（豊田様）

②有機農園見学（豊田様）

③荒蒔邸見学（NPO法人・遊学様より、自由見学の承諾済み）

④生産物直売所（見学・希望者は買い物）

*③④は、残り時間を睨みながら判断します。

16:00 生産物直売所発

16:30 常陸太田市役所発

17:10 银杏坂発

17:30 茨城大学正門着・解散

*畑・牧場・耕作放棄地等を廻りますので、汚れてもいい格好でお願いします。特に靴は頑丈で実用的なものでお願いします。

*プラトー里美&荷見様宅周辺の標高は600m前後あります。単純計算で茨城大学水戸キャンパスより6度は気温が低くなります。通常の服装に加えて、暖かい衣類を持参して下さい。

*2日目の昼食は里美名産のソバになります。ソバアレルギーのある方は、事前に申告して下さい。また、ソバ以外にも、食物アレルギーのある方は申告して下さい。

◎遅刻厳禁です。10分前行動を心掛けてください◎

2. 持ち物

- 現金（最低限、宿泊費と2回の昼食代が必要です）
 - 動きやすい服装（昼間の活動用）
 - 暖かい服装（夕方～夜は冷えます）
 - しっかりした靴（長靴・トレッキングシューズの類があればベスト）
 - 帽子・タオル・軍手等、フィールドワークに必要な小物類
 - 飲み物
 - カメラ、メモ帳、筆記用具など
 - 保険証（コピーでも可）
 - 常備薬
- 以上のもの以外にも、各自必要なものがあれば適宜準備してください。

3. 緊急時の対処と連絡先

緊急事態が発生した場合は、まず鈴木敦に連絡してください。

電話 : 080-3428-3196

メール : kannobuteinotenkan2nenaki9gatu@docomo.ne.jp

4. 注意事項等

- ・今回のフィールドワークは、多くの方々のご支援を戴いて実現しています。先方にご迷惑をおかけすることのないよう、自分で考えて行動するようにしてください。特に挨拶やお礼はしっかりと行いましょう。
- ・集合時間等には遅れることのないよう、早め早めの行動を心掛けてください。

5. 活動に当たって

- (1)フィールドワークには、専用のメモ帳を携行し、こまめにメモをとりましょう！「記録を取ること」を習慣化することが大切です。
- (2)メモ帳は、各自の好みで構いません。＜参考までに＞考古学の調査等で使用する「野帳」をご紹介します。生協の購買部等でごく安価（200円程度）に販売していますので、この機会に購入するのもいいでしょう。（鈴木敦の方で、新品をいくつか持っています。）



（コクヨ 野帳 セーY3）

中紙寸法（タテ・ヨコ）：160・91

枚数：40枚

中紙：上質紙

●外寸法/タテ 165×ヨコ 95×厚み 6

JANコード

4901480781174

(3)担当教員のスタンス

PBL 授業ですので、教員は極力手を出さないように心がけています。かくして通常は、皆さんの活動を「傍観」することを基本とします。何事であれ、「自ら動く」ことを心がけて下さい。一方で、困ったこと等が出て来た時は、遠慮せず声をかけて下さい。

(4) 終了後に、レポートを提出して下さい。

①プロジェクト実習 B メンバー:過去のフィールドワークに準じます。締切は 10/23 とします。

②初年次 PBL 試行メンバー : 本パンフレット 8 ページ「5」の通り。



OSATO-CHAN

資料 1 : 初年次向け PBL 試行・趣旨書

1 年次向け 5 学部混合 PBL 授業・試行

参加者募集

大学教育センター・キャリア教育部長
鈴木 敦

茨城大学就業力育成支援事業「根力育成プログラム」では、人文学部の専門科目として 2 年次生以上を対象に PBL 授業「プロジェクト実習」を開講しています。同授業は茨城大学の他学部学生は勿論、茨城キリスト教大学・常磐大学学生にも単位互換科目として開放されています。

アクティブ・ラーニング（中でも PBL 授業）は、近年の社会的要請を背景に、文部科学省が拡充に力を入れている新しい形態の授業です。上記「プロジェクト実習」は、

- (1) 学外から頂いた「ざっくりした課題」について
- (2) 学生自身が問題を絞り込んで具体的な「プロジェクト」を設定し
- (3) チームで取り組む

という形態で取り組んでいます。

この度、これを 1 年次学生向けにも拡大すべく、来年度以降の正規開講を視野に時間数をできる限り圧縮し・単位無しで・募集定員 10 名で試行することとなりました。試行であること・時間数が少ないことから単位は出せませんが、その分予算的支援を手厚くし、皆さんの経済的な負担を極力抑えるよう努力しました。

概要は次ページに記した通りです。参加を希望する方は

7 月 15 日（水）までに

鈴木敦 (suzukia@mx.ibaraki.ac.jp) 宛にメールで連絡して下さい。

→質問についても、上記アドレスへお願いします。

皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

I : 目的

茨城大学の 5 学部にもたがる初年次学生が、学内でのいわゆる座学と茨城県常陸太田市里美地区でのフィールドワークに取り組み、「背景を異にするメンバーで・地域の課題にチームで取り組み・成果をまとめて報告する」という一連の流れを体験し、課題解決力・チームワーク力等、根力（＝茨城大学版社会人基礎力）の重要な構成要素について実地にトレーニングします。

II : 活動概要（1・3・5 は一斉授業形式・それ以外は各人で自由に取り組みます）

1 : 現地講師による事前レクチャー・課題提示（7 / 24・5 限・教室で講義）

→下記、現地講師のお二人から「ざっくりした課題」をご提示戴きます。

荷見 誠氏（里川カボチャ研究会代表）

豊田紀雄氏（一般財団法人・里美ふるさと振興公社総括支配人）

* 典型的な中山間地域・少子高齢化地域である茨城県常陸太田市里美地区において、地域が

直面する諸課題に挑戦的な取り組みを展開しておられるお二人から、「耕作放棄地問題の深刻さと対策の困難さ（対策の前提となるイノシシの害の深刻さを含む）」をお話し戴く予定です。今回の試行では、提示された課題について各人がネット等で収集した情報と現地フィールドワークで得た知見に基づき、「課題解決の一助となる提案」をまとめます。

2：事前調査&各人のテーマ設定（～8/31・各自で取り組み、メールで提出）

→「具体的にどういうテーマについて提案を行うか・そのために現地フィールドワークで何を調べるか」について、各人の計画を200字以上に纏めて、8/31までにメールで提出します。

→「ざっくりした課題」から「具体的なテーマ」への絞り込み方については、別紙の「<ざっくりした課題>から<自分のテーマ>への思考シミュレーション」を参照して下さい。

3：現地フィールドワーク（9/28-29・常陸太田市里美地区でチーム活動）

→現地講師の方々にご指導を戴きつつ、一泊二日で現地調査

4：事後調査とレポート取りまとめ（11月末・各自で取り組み、メールで提出）

→4での知見に事後調査を加えて提案書（800字以上）に纏め、11/30までにメールで提出。

5：報告会（12月12日）

→5の提案書に基づき、代表者による一件10分程度のプレゼンと質疑応答

*プロジェクト実習の活動報告会と合同で行います。



OSATO-CHAN

資料2：初年次向け PBL 試行・試行のシミュレーション

[7/24 事前レクチャーの概要]

「耕作放棄地問題の深刻さと対策の困難さ（対策の前提となるイノシシの害の深刻さを含む）」

→これは確定です。それを踏まえて「ざっくりとした課題」として具体的にどのようなものが提示されるかは未定です。以下は、あくまでシミュレーション用に当方で考えたものです。

[ざっくりした課題（例）]

「カボチャ等の＜地面を覆って繁茂する作物＞を、最初から収穫を目指すことなく栽培し、雑草・低木の繁茂を抑える。その上で毎年秋に一回草刈り機をかけることで、低木を確実に排除する。これを実現するための（イノシシ対策も含めた）種々の提案を求める。」

→高齢化とイノシシによる農業被害の深刻さから、年々耕作放棄地が拡大している。耕作放棄後2年もすれば低木が入り始め、急速に雑木林化する。そうなったら、事実上もはや農地として回復させる術はない。対応策として

- (1) 速やかな再耕地化
- (2) 耕地以外への転用
- (3) その他の対応

の3つが考えられる。上記「ざっくりとした課題」は、(3)の一例として「将来、農業法人等が進出して再耕地化の条件が整った際に、耕作放棄地を速やかに再耕地化できる状態で（＝耕作放棄地ではなく休耕地として）保全するための方策を考える。」ということ。

保全のためには、継続的に低木の侵入を抑えることが必須となる。そのための労力と予算をいかに抑制するかが、成否の勘所となる。侵入一年目の低木は草刈り機で容易に排除できるが、二年以上経つと草刈り機では歯が立たず、低木排除のためのハードルは一気に上がる。

*文末の資料は、福島県富岡町の原発事故被害地の事例です。今回フィールドワークを行う茨城県常陸太田市里美地区に関するものではありませんが、いかなる理由であれ田畑の手入れができなくなると、「雑木林化」がいかに急速に進んでしまうかを示す例として掲載しています。参考にして下さい。

[＜自分のテーマ＞への、学部別（？）思考シミュレーション]

上記「ざっくりした課題」を「各人の具体的なテーマ」に落とし込んでいく流れについて、「学部別の思考シミュレーション」を記してみたいと思います。あくまでも「参考までに」という位置づけです。皆さんの自由な発想に期待します。

<基本姿勢>

「この課題に、自分の専門性を活かして、どういう貢献ができるだろうか？」と考える。

(1) 農学部学生：

収穫を期さない・地面を覆うことを第一義とするカボチャ栽培には、どのような品種が相応しいだろうか？雑草を抑えるために、ただカボチャの葉を繁茂させるだけでよいなら、定植時の全面耕起は不要。なまじ実がなったりするとイノシシのエサを増やしてしまい、却って

事態を悪化させる。そうであれば「農作業の手間」は積極的に減らせる。しかし、成長不良になっては被覆効果が減ってしまう。1株当たりどの程度の面積を耕起し、株間はどれ位とするのが効率的だろうか？また、そもそもこの目的にもっと相応しい農作物はないか？・・・

或いは牛・山羊等の、これまた「除草を第一義とする・商品価値のある肉の生産を期さない」粗放的放牧は？イノシシ除けとして活用している地域もあるらしい・・・

→具体的テーマ：今回は「くただ葉を繁茂させるだけの栽培」にはカボチャ1株当たりどの程度の面積を耕起し、株間はどれ位とするのが効率的か？」を自分のテーマとしよう。と、すれば、フィールドワークで調べるべき事は・・・
(以下、略)

(2) 工学部学生：

耕作放棄地になる所は、不便な所。しかも山間地に散在している。通常のトラクターを持ち込もうとしたら移動の手間と燃料代ばかりかかってしまう。一方で高齢者の人力のみでは対応不能。では、アシストスーツやロボットを作るか？仮に作れたとしても、休耕地保全という、直ちには収入を生み出さない作業のために多額の予算投入をする合理性・実現可能性はあるか？むしろ草刈り機の構造をベースに、持ち運びが容易な「局所耕耘機」を作れないか？これなら遥かに短時間で・安価で作れるはず・・・

イノシシ対策にはコンピュータやセンサー技術を活用できるはず・・・

→具体的テーマ：今回は「持ち運びが容易な局所耕耘機に相応しい仕様（形態・重量等）の策定」を自分のテーマとしよう。と、すれば、フィールドワークで調べるべき事は・・・(以下、略)

(3) 理学部学生：

収穫を期さないなら、農作物ベースで考える必要は無い。もっと簡単に栽培でき、イノシシのエサにもならない植物はないか？ナギナタガヤはどうか？しかし外来作物の安易な大量導入は生態系を乱す可能性があり、問題はないか？・・・

現代日本において、イノシシほど身近でかつ深刻な被害を発生させている野生動物はいない。しかし、その生態の研究は進んでいない。イノシシの生態研究を進めることで、対応策も見えてくるのではないか？・・・

→具体的テーマ：今回は「現地の自然環境に合い・既存の生態系を乱さず・イノシシのエサにならない植物の選択」を自分のテーマとしよう。と、すれば、フィールドワークで調べるべき事は・・・(以下、略)

(4) 教育学部学生：

児童・生徒への環境教育の一環として、休耕地対策を考えるカリキュラムを設計できないか？授業の一環として、保護者も巻き込みつつ実際に保全活動を行うという取組を構想することはできないか？・・・或いは児童・生徒に拘らず、グリーンツーリズム系でプランニングした方が、実現可能性が高いか？

→具体的テーマ：今回は「授業の一環として、保護者も巻き込みつつ実際に保全活動を行うカリキュラム案の策定」を自分のテーマとしよう。と、すれば、フィールドワークで調べるべき事は・・・(以下、略)

(5) 人文学部学生：

少子高齢化地域だからこそ耕作放棄地が発生する。機械を作っても・好適品種を発見しても、地域の労働力・経済力だけで十全に運用することは難しい。行政・NPO・企業・ボラ

ンティア等を巻き込んだ、包括的な保全体制を設計・実現できないか？これまでに無い枠組みを構築すれば、モデルケースとして補助金も期待できる・・・

農業法人誘致による再耕地化はどこでも可能な訳ではない。見通しも無く漫然と・長年保全し続けることは不可能。別の切り口からの休耕地対策も併せて考える必要があるのではないか？農地が雑木林になっていくという現象を「耕作放棄」ではなく「環境破壊」と捉える観点はどうか？地域外に向けて「休耕地保全策」ではなく「環境保全策」として働きかけるのはどうか？イノシシ対策、特に駆除の方策を考えるには、前提となる各種法律・条例の調査が不可欠・・・

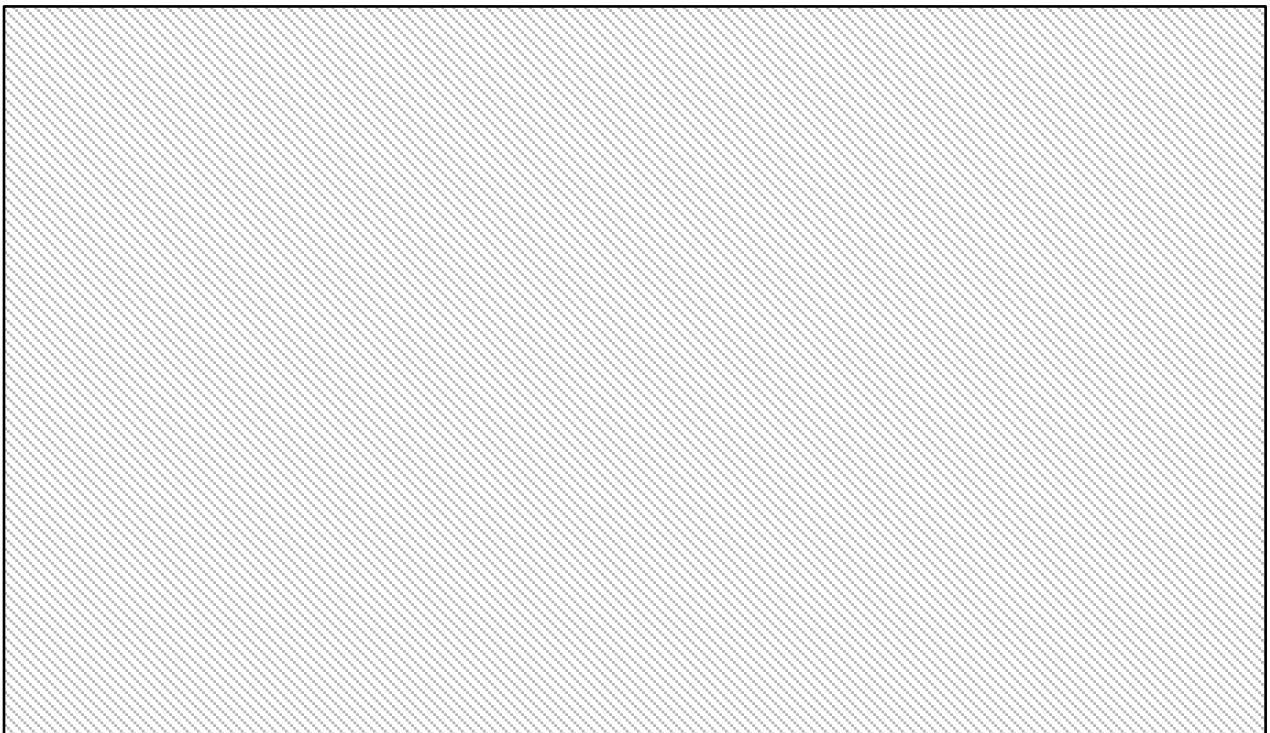
→具体的テーマ：今回は「イノシシの駆除方策に関する、現行の各種法律・条例を踏まえて、現地で採用可能な具体的駆除方法（罾・銃等）の提案」を自分のテーマとしよう。と、すれば、フィールドワークで調べるべき事は・・・
(以下、略)

[資料]

ヤナギの壁、米作り再開阻む

福島、立ち入り制限の水田

20140709 朝日新聞夕刊



資料3：初年次向けPBL 試行・各人の活動テーマメモ

XXXXXXXXXX（人文学部社会科学科1年）

私の設定したテーマは、イノシシ駆除のできる人材育成とその定着、である。里美地区の人口は少なく、またイノシシを駆除できる方は更に少ない。故に私はイノシシ駆除のできる人材を育成することが獣害を減らす第一歩であると考えた。しかし、いくら人材育成を提案したところでたくさん問題があると考えられるよって私はフィールドワークにおいて以下のことを調査したい

- ・ イノシシ狩りの伝わり方

銃の扱いなどは免許を取ればいいが、実際狩をするとなると必ず師匠に当たる存在がある。その方にどのようなことを教えてもらうのか、きちんと狩れるようになるまでどのくらい時間がかかるのかどのような人物が好ましいのか、また費用等について、狩のできる方の生の声が聞きたい

- ・ 若者を里美地区に引きこむと考えた時に里美地区の方々にとって心配なこと 実際、里美地区に来る若者達の心配を考慮することは多々あれど当の里美地区の方々には目が行くことは少ないように思われるのでこのことについて聞いてみたい

- ・ 里美地区の方々にとっての地域の魅力、問題点

里美地区の方々にとって里美地区にはどのようなところ、不便なところがあるのか尋ねてみたい以上の聞き込み調査を中心に当日のフィールドワークを進め、最終的にイノシシ駆除のできる人材育成のシュミレーションを考え、またその人材が里美地区に定住する案を提案したい。

また、調査方法としては、主にレクチャー等でお話をいただける方々に質問しようと考えている。また、適宜聞き込みを増やしたいと考えている。

XXXXXXXXXX（人文学部社会科学科1年）

日本で高齢化が進んでいることは以前から言われてきているが、里美も例外ではなく、高齢化による環境の変化が、里美が抱える問題の原因となっている。猪被害の増加の原因は、農業従事者の高齢化と担い手不足により、耕作放棄地が増え、手入れをしないために雑草や低木が増え、猪の活動範囲と人間の生活範囲との境界線があいまいになっているため、猪被害が増加している。また、作物を外に捨てるのが餌付け行為になってしまっている。根本的な原因の解決を急がなければ、事態はさらに悪化するだろう。そのことから、スムーズな、新規就農者の獲得から作物の栽培・出荷までの流れを作ることが必要である。また、里美のピンク色のかぼちゃなどの農産物を「里美牛」のようにブランド化することで知名度を高めることにつなげる。しかし何より重視すべきは、新規就農者の獲得と栽培から販売までのサポート、農業の継続のための支援が出来る体制の確立である。そのためフィールドワークで調べることは、里美の地理・人口、アクセス経路や現状の里美の農業のあり方・取り組み、流通経路などである。

XXXXXXXXXX（人文学部社会科学科1年）

目的：【新しいヒット作物を植えること、もしくは新しいヒット家畜を育てることによる、耕作放棄地の有効利用、減少】

そのために現地にて調べること

- ・耕作放棄地の面積・分布
- ・過去の栽培データによる優良作物の選定
- ・選定した作物を育てるに必要な人件的、金銭的コストの試算
- ・牧場で飼育されている動物の種類、流通量、用途、価格
- ・里美地区の労働人口の推移、要因

また、耕作放棄地の増加、イノシシ被害等それぞれの本質的な問題は、人口の減少にあると推測する。

新しい作物、家畜を育て、里美地区のヒットブランドとし、里美地区の知名度をあげることにより、人口減少に歯止めかけることで問題の根本的解決にあたる。

XXXXXXXXXX（工学部・電気電子工学科 1 年）

事前レクチャーにおいて、イノシシと豚の交配種であるイノブタは繁殖力が強く、地域の駆除が追いつかないと聞いた。そのため、イノシシを駆除するよりも、先ず優先的に被害を減らす方法を思案する。里山では、農耕地を荒らすイノシシやイノブタによって田畑を荒らされる被害に悩んでいる農家が少なくない。しかし、単に電気柵を設置するだけでは飛び越えたり、つき破ったりしてしまうため何か改善策を講じなければならない。また、先の電気柵の漏電による死亡事故のニュースを受け、人間への安全面も考慮しなければならない。さらに適宜、電気柵以外のよい方法(音、におい、光等)があれば上手く取り入れたい。

具体的テーマ：「イノシシが農耕地や住宅へ侵入することを阻止する電気柵の改良,新しい設置法等の考案」

フィールドワークで調べるべきこと

- i) 現地の住民は、現状でイノシシを駆除しきれると思っているかどうか、できないならばどうすればいいと思うか、または、できない理由は何かを調査する。
- ii) どんな動物が畑を荒らし、どの作物が狙われやすいのか調査する。
*イノシシの被害を優先して調べる
- iii) イノシシが家宅に侵入しないように取っている対策を調査する。
- iv) 電気柵等の鳥獣から畑を守ることにかけることのできる費用を調査する。
- v) 農家同士でうまく連携がとれるか、とれているかどうか調査する。
- vi) 事前に電気柵の設置法をインターネット等で調べ、実際にどう使っているのか調査する。
- vii) できる限り地域の方々と話し合いながら、電気柵の改良、設置の案をまとめる。

XXXXXXXXXX（工学部・機械工学科 1 年）

里美地区農業振興計画案

概要

現在、里美地区で耕作地が占める面積は、わずか 2%でしかない。そのうえ、農業の規模を拡大しようにも高齢化等の影響で人手が足りていないのも事実である。

そこで、海外から農業従事者を招待するというのはどうだろうか。特に発展途上国では、農業従事者が多く存在する。そのような国に住む人を呼べば、作物の出荷量が増え、道の駅を再開することも可能になるだけでなく、里美の人口を増やすことも可能である。また、イノシシが持つ茂みを好む習性から、耕作

放棄地の減少により、鳥獣被害の減少を期待することも出来る。

問題点

- ・ 言語の習得が、互いに困難である。
- ・ 耕作放棄地の開墾に多額の費用が必要である。

実地にてすべきこと

- ・ すぐに使える耕作放棄地がどれだけあるのかを調べる。
- ・ 気候や土壌の性質を調べ、どんな農作物が作れるのかを知る。

出荷物運搬簡略化計画案

概要

耕作地には、そこに辿り着くまでの道がしっかりと整備されていないものが存在する。そのような場所で生産された収穫物を軽トラック等を用いず、人力で運ぶのは時間がかかる上、手間もかかる。

このような事態を避けるために、収穫物を運搬するためのゴンドラ、あるいはトロッコを作るのはどうだろうか。

問題点

- ・ 自然が損なわれる。
- ・ 定期的に点検する必要があるので、維持費がかかる。
- ・ 耕地面積の割合が現在のまま増えない場合、このような設備自体が必要ない。

実地にてすべきこと

- ・ 収穫物を運搬するのに最も効率の良いルートを探る。

イノシシ対策

概要

猟師の減少、耕作放棄地の増加、天敵であるニホンオオカミの絶滅等の理由により、イノシシによる被害が全国的に増えている。里美地区もその例外ではない。しかし、長い時間をかけて増え続けてきたイノシシの数を即座に減らすことは困難である。

そこで、まずはイノシシの数を減らすのではなく、イノシシの被害をいかにして防ぐかを考えることにする。

問題点

- ・ イノシシの数は減らないので、根本的な解決にはならない。

実地にてすべきこと

- ・ 現場でどのような対策がとられているのかを調べる。
- ・ イノシシが人里に降りてくる原因を調べる。

プロジェクト実習B

さとみ・あい活動報告

【さとみ力伝え隊】
 箭内淳美 山田真理子 南陽子 山口奈穂 山口未来

【泉美・ゆう】
 大枝俊貴 鈴木透 助川実咲 小林希望

【全体統括】
 井上紗希 千葉美香 星野由季菜

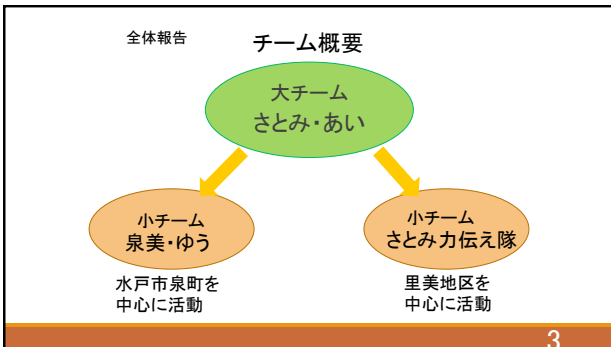
1

全体報告

全体目次

1. チーム概要
2. さとみ力伝え隊活動報告
3. 泉美・ゆう活動報告
4. まとめ

2



さとみ力伝え隊報告

さとみ力伝え隊報告 目次

1. 活動の目標・目的
2. 今年度の活動
3. 活動内容
 ……里美訪問、里川カボチャ収穫祭、さとみ・あい合宿フィールドワーク、かかし祭り出展・味覚祭参加、SNS広報
4. よかったこと、学んだこと
5. 今後の展望

4

さとみ力伝え隊報告

1. 活動の目標・目的

<ul style="list-style-type: none"> ○学生視点で里美をPRする ○里美を外の人に知ってもら ○里美との新たなつながりづくりのお手伝いをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSを利用した広報の活発化 ○イベントを成功させ、里美のファンを増やす ○持続可能な活動を心がける ○外部との連携の強化
---	---

5

さとみ力伝え隊報告

2. 今年度の活動

【フィールドワーク】

6月14日	…里美訪問
8月10、18日	…里美訪問
9月7日	…里美訪問
9月28・29日	…さとみ・あい合宿フィールドワーク
10月17日	…里川かぼちゃ収穫祭
10月24日	…里美訪問
10月30～11月1日	…里美かかし祭り出展、秋の味覚祭参加
11月15日	…youth & topミーティング参加
1月31日	…おさとちゃんトートバック配布

6

3. 活動内容①里美訪問

- 6月14日 荷見様、里美ふるさと振興公社の方々への御挨拶・御相談、畑作業のお手伝い
- 8月10日 里美地区内取材
- 8月18日 畑の手入れ、BSジャパン取材対応
— **2015年10月11日放映<日本「真」発見>**
- 9月7日 里美ふるさと振興公社での打ち合わせ
- 10月24日 里美ふるさと振興公社にて里美牛カレーの仕込み



3. 活動内容②さとみ・あい合宿フィールドワーク

日程：9月28日・29日の二日間
●9月28日

【午前】

- ガイドダンス
- 常陸太田市里美地区概要(白石栄里様)
- 里美ふるさと振興公社の取り組み概要(豊田紀雄様)

【午後】

- 里川カボチャのレクチャー(荷見誠様)
- 一在米復元の取り組み・里川カボチャ研究会・耕作放棄地対策
- 畑見学 → 農事層と作業の実際
→ メッシュ柵&電気柵によるイノシシ対策
- 荷見様・豊田様・後藤様・鈴木様からのレクチャー、荷見様他4氏との情報交換、学生自身の振り返り

3. 活動内容②さとみ・あい合宿フィールドワーク

●9月29日

【午前】

- 里美牧場とプラトー里美に関するレクチャー(豊田様)
- プラトー里美の施設見学・利用状況データ
- 里美牧場における飼育～出荷体制
- 現有体制・施設と旧体制・施設からの改善点等
- ・牧場、飼料米生産田&関係施設、うぐいすの里見学

【午後】

- ・里美牛関係施設、有機農園見学(豊田様)
- ・荒蕨邸見学(NPO法人・遊学様)
- ・生産物直売所見学

3. 活動内容②さとみ・あい合宿フィールドワーク

【学んだこと】

- ・カボチャや里美牛などの食が、地域や他地域の人々を結ぶ役割を果たす。
- ・イノシシ対策は、随時取っていく必要がある。
- ・新しい技術を研究し、取り入れていくことの重要性を実感した。
- ・林業、伝統文化、祭りにおいて、後継者がいないことにより伝わらなくなってしまう可能性への危機を感じた。
- ・地域内外に関わらず次世代の人間が関わっていく大切さを学んだ。

3. 活動内容③里川カボチャ収穫祭

日程：10月17日

【目的】

- ・里美に実際に足を運んでもらうきっかけを作る
- ・里美について知ってもらう
- ・他大学との交流を図る

【方法・内容】

- ・里川カボチャ収穫祭
- ・レクリエーション
- ・里川カボチャを使った軽食の提供
- ・観光スポットの一つである「横川の下滝」案内



参加者より

さとみカ伝え隊報告

3. 活動内容③里川カボチャ収穫祭

●アンケート

・参加者に、事前に作成したアンケートを配布

回答者：参加者20名(さとみ・あいメンバー以外)

・質問は全部で6項目

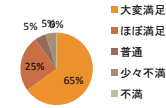
・質問は「はい」「いいえ」の二択と自由記述によるもの

13

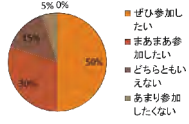
さとみカ伝え隊報告

3. 活動内容③里川カボチャ収穫祭

収穫祭満足度



収穫祭にまた参加したいか？



「特にどのスケジュールが良かったですか？(複数可)」

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1位 かぼちゃ収穫 14 | 4位 道の駅 5 |
| 2位 レクリエーション 9 | 5位 かぼちゃ試食会 5 |
| 3位 里美地区観光・横川の下滝 8 | 6位 その他 3 (お昼)(全部) |

14

さとみカ伝え隊報告

3. 活動内容③里川カボチャ収穫祭

「収穫祭を通して里美に対する印象は変化したか？」

・自然、特産物、里美の人の良さなどを知り、里美は素敵な場所だと感じた。

「感想・その他」

・大学、高校の学生、生徒、そして教員の方々と楽しい時間を過ごせた。

・試食会に水農の食化も入れていければより面白いのではないかと。

・グッズの開発があると楽しい。デザインをさとみ・あいに、トータルなPR(食・自然・地域伝統文化)パンフレットを太田市役所に提案してはどうか。

15

さとみカ伝え隊報告

3. 活動内容④ 里美かかし祭り出展

●里美かかし祭:10/24~11/28

・さとみ・あいチームで計3体出展

→佳作、努力賞×2をいただきました！



16

さとみカ伝え隊報告

3. 活動内容⑤ 秋の味覚祭参加

●秋の味覚祭:10月31日(金)~11月1日(日)

・里川かぼちゃコロッセの仕込みのお手伝い(10/30・31)

・里川かぼちゃ研究会のブースにて販売のお手伝い

(10/31・11/1)

→二日間で

里川かぼちゃコロッセ約470個を完売！！



17



18

さとみ力伝え隊報告

3. 活動内容⑥ SNS広報

- Facebookの「いいね！」 94人
- Twitterの「フォロワー」 78人 (2015年6月2日時点)

目標・・・今年度末までに倍増させる！

2016年1月24日時点で

- Facebook 108人
- Twitter 189人

←達成！！

19

さとみ力伝え隊報告

3. 活動内容⑥ SNS広報

○更新回数
 Twitter 昨年度7回、今年度28回
 Facebook 昨年度25回、今年度12回

→広報としてより即時性の高いTwitterに力を入れた

- ・どのように更新すればフォロワーやいいね！が増えるか
- ・里美地区の情報も併せて発信すべき

Twitter @satomi_ai
 @izumi_u_satomi
 Face book さとみ・あい

20

さとみ力伝え隊報告

4. 良かったこと・学んだこと(年間通して)

- ・メンバーが地域の方々と密接に関わることができた。
- ・メインの活動を絞ったことで、集中して取り組むことができた。
- ・小チーム内での意思疎通、役割分担ができた。
- ・目的を持って行動することの重要性を学んだ。
- ・自分たちが何をするためにどんなことをすればいいのかを考えることができた。

21

さとみ力伝え隊報告


5. 今後の展望

- 広報にさらに力を入れる
 - ・・・里川カボチャを多くの人に知ってもらうための活動
 - ・・・学内など身近なところに向けての活動
- 外部の方がもっと里美に足を運び易くなる方法を考える
- 「何が里美のためになるのか」ということを常に考えて活動していく
 - ・・・地域の方々との交流を充実させる

22

ご清聴ありがとうございました！

さとみ力伝え隊の報告は以上です
 以下、泉美・ゆうチームの報告です



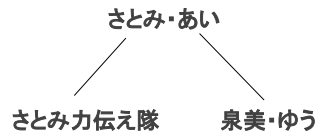
23

泉美・ゆう



24

自己紹介



自己紹介



泉美・ゆう

「わたしたちが暮らす」 水戸市の「泉」町二丁目

「わたしたちが根ざす」 常陸太田市の里「美」地区

目的

泉町商店街および水戸市を拠点とした

「里美地区のPR」
+
出店やイベント参加を中心とした

「泉町の魅力探し」

活動内容

「里美地区特産品販売ブース “里美カフェ”」

- ①里美カフェ@泉町会館
- ②里美カフェ@水戸まちなかフェスティバル
- ③里美カフェ@茨菰祭

「PRリーフレットの作成」

①里美カフェ@泉町会館



【menu】

main

里美牛カレー
里美牛丼

desert

里川かぼちゃのアイス+クッキー



Drink

飲むヨーグルト
里美コーヒー





31

泉美・ゆう

②里美カフェ@水戸まちなかフェスティバル

【menu】

main

里美牛カレー

desert

里川かぼちゃのタルト

vegetable

ルッコラ

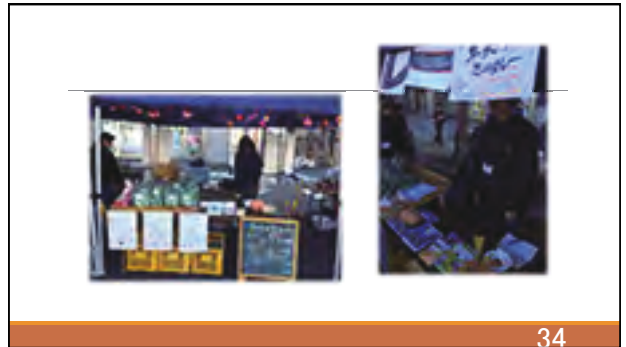
ホウレンソウ



32



33



34

泉美・ゆう

③里美カフェ@茨苑祭

【menu】

Desert

里川かぼちゃのスイートパンキン

里川かぼちゃのタルト



35



36

泉美・ゆう

リーフレット制作

両面に里美・泉町それぞれを特集

「入口」をふたつに

SNSには無いよさ

37

泉美・ゆう

リーフレット制作

費用について

「企画提案チャレンジ支援事業」

若者が自ら提案・実施する企画提案を募集。
補助金や指導員の助言指導を行い、地域における若者の活動のチャレンジを応援する。

主催：公益社団法人茨城県青少年育成協会様

プレゼンを行い、10万円の補助をいただいた。

38

泉美・ゆう

リーフレット作成

打上げて使ったお店よかったね!

カフェ多いし、魅力的だよな〜

生徒様きうまい!

感じた魅力をリーフレットにすればいいんじゃない?

39

泉美・ゆう

リーフレット作成

コミュニティ作成

24,000部

デザイン

40

泉美・ゆう

リーフレットの有用性

配布が現時点では不十分であること、またリーフレットによる振興の効果が実証しづらいことから、今回作成したリーフレットの有用性について検証を行った。検証の方法としては、茨城大学の学生を対象にリーフレットを配布し、配布前後でどのような印象の変化があったかアンケートを実施した。検証の目的に関して、全体の88%が里美地区に関してはリーフレットを配布してほしいと回答した。内容に関しては、「おしゃれ」「レトロ」がカフェを重視する学生に受け入れられ、狙い通り「おしゃれ」「レトロ」のイメージが強く挙げられ、狙い通り「おしゃれ」「レトロ」のイメージが強く挙げられる。このリーフレットを配布することにより、両地域のイメージアップに貢献できると判断、配布に力をいれていく。

■ 行ってみたいと思った ■ 魅力を感じた

■ 特に...

41

泉美・ゆう

リーフレット配布予定先(代表例)

茨城大学 図書館広報スペース 社会連携センター	泉町二丁目振興組合様 泉町会館 village310様
里美地区 常陸大田市役所様 里美ふるさと振興社様	水戸市 水戸市役所様 水戸市公民館様 水戸芸術館様 こみっとフェスティバル
道の駅さとみ様 1/31里美地区報告会 2/7 汁oneカッブ	

42

成果

お客様の声(カフェにて)

- ・「星美牛？」⇒メニュー等で星美を強調したことで興味のきっかけとなれた。
- ・「おいしいカレーでした」⇒星美牛のPRとしては疑問符が残る
- ・「今年もかぼちゃ買いに来たよ」⇒独力ではないが、確実に人気を得ている。
- ・「タルト、美味いって聞いてきました」⇒荻荻祭で販売するという戦略の成功。

先輩方が作成したリーフレットの配布
⇒リーフレットのPRに対する有用性を実感。

学んだこと

ひとりよがりの解消

アンケートの実施(対象と内容)

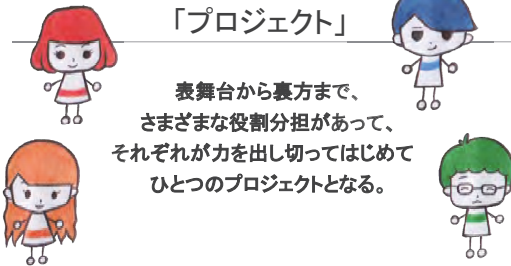
マーケティング

どんな層をターゲットとして、どうすればその層に届く？
いかにブースの中に集客をつくっていくか

誘う難しさ

魅力を言葉にすること

「プロジェクト」



表舞台から裏方まで、
さまざまな役割分担があって、
それぞれが力を出し切ってはじめて
ひとつのプロジェクトとなる。

まとめ

「さとみ・あい」としての活動も相まり、
水戸での星美のPRはますます。

しかし、泉町のPRにおいてはその限りでない。

今回、作成したリーフレットがその一端を担ってくれるよう
継続した活動を！！

全体報告

お世話になった皆様

- 荷見誠様始め里美地区の皆様
- 豊田紀雄様始め里美ふるさと振興公社の皆様
- 福田様始め常陸太田市里美支所の皆様
- 宮本敏太郎様始め泉町二丁目商店街振興組合の皆様
- 森山純子様(水戸芸術館様)
- 茨城県立水戸農業高等学校様
- 新堀俊博先生(食品化学科様)
- 磯野貞志先生(農業科様)
- 池澤正博先生(農業科様)
- 茨城キリスト教大学様
- 常磐大学様
- 茨城大学教職員の皆様

ご清聴

ありがとうございました！！



さとみ・あい 公式キャラクター
おさとちゃん

・Twitter @satomi_ai
@izumi_u_satomi

・face book さとみ・あい

Youth & Top Meeting

(1/4縮小)

YOUTH & TOP MEETING

若者×トップ ミーティング 2015

出会う

聴ける

話せる

地域で活躍する若者の団体・グループのリーダーと、自治体や企業のトップが集まります。意見交換や交流会でトップとのコミュニケーションを通じ、あなたの団体・グループが新しい一歩を踏み出すチャンスにしましょう。

テーマ

3つの力を引き出す！
 活動の力を引き出す
 活動に参加する仲間を引き出す
 活動のPR力を引き出す

日時 平成27年11月15日 14:00～17:00 (受付13:30～)

会場 ホテルレイクビュー水戸

参加費 無料 (交流会費3,000円程度)

対象 概ね18歳～概ね30歳

募集人数 30名

募集期間 平成27年10月8日～平成27年11月5日

参加申込 公益社団法人 茨城県青少年育成協会 FAX (募集所) Eメール (募集は茨城県青少年育成協会ホームページからダウンロード) から申込みできます。
 TEL: 029-228-2747 FAX: 029-228-6200
 メール: sha@ibaraki-kusai.jp ホームページ: http://www.ibaraki-kusai.jp

○当日は、13時30分から受付を開始します。
 13時50分までは、受付を済ませて入場してください。
 ○駐車場について
 ホテル・レイクビュー駐車場がご利用できます。

主催：茨城県・茨城県青少年育成協会

FAX 029-228-6200

平成27年度 ユース&トップミーティング 参加申込書

ミーティング、交流会それぞれにどちらかを○で囲んでください。

ミーティング	14:00～16:00	参加する ○ 参加しない
交流会 (会費3,000円程度)	16:00～17:00	参加する ○ 参加しない

氏名	性別	男 ○ 女
生年月日	年 月 日	年齢
職業	※下記の1～10の選択肢からお選びください。番号 []	
所属する 若者団体の 主な活動内容	1. 社会派、2. 公務員、3. NPO職員、4. その他団体職員、5. 自営業、 6. パート・アルバイト、7. 学生、8. その他	
主な活動地	団体の名 主な活動内容 主な活動地	
申込 責任 所	〒	
連絡先	TEL: 携帯電話: E-Mail:	
アンケート	※ミーティングを参加にどちらでもお知りになりましたか? 下記の選択肢からお選びください。 1. 開催予定 (配布場所)) 2. 青少年育成協会からの通知・案内 3. 青少年育成協会ホームページ 4. フェイスブック 5. 知人の紹介 6. その他 (具体的に)	
自己PR 受講動機等	※ご自身の活動にまつわるPRや受講の動機についてご記入ください。	

※ご記入いただいた個人情報は本ミーティングの目的の範囲内において取集・維持・利用いたします。またお預かりした個人情報をご本人の承諾を得ることなく第三者に提供、開示することは一切いたしません。参加費の決定については、申込次第に通知します。

【申込先】 〒310-0034 茨城県水戸市緑町1丁目1番18号 茨城県立青少年会館3階
公益社団法人 茨城県青少年育成協会
 TEL: 029-227-2747 FAX: 029-228-6200
 メール: sha@ibaraki-kusai.jp ホームページ: http://www.ibaraki-kusai.jp

ユース&トップミーティング 次第

日時:平成27年11月15日(日)14:00
場所:ホテルレイクビュー 水戸

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 ミーティング
- 4 交 流 会
- 5 閉 会

主催：茨城県・(公社)茨城県青少年育成協会

2015/11/14

ユース&トップミーティング参加者名簿

日時:平成27年11月15日(日)14:00
場所:ホテルレイクビュー水戸

○自治体・企業の代表

氏 名	役 職 名	テーブル
大久保 太一	常陸太田市長	A
山口 伸樹	笠間市長	B
小林 富夫	茨城町長	C
濱田 和成	イオンリアル株式会社専務取締役 北関東・新潟カンパニー支社長	A
横地 裕昭	株式会社常陸銀行常務取締役	B
関 正樹	関彰商事株式会社代表取締役社長	C

○総合司会

鈴木 もえみ	フリーアナウンサー
--------	-----------

○コーディネーター

氏 名	役 職 名	テーブル
伊藤 哲司	茨城大学文学部教授	A
山田 タロシ	Webディレクター/ラジオパーソナリティ	B
木村 さおり	フリーアナウンサー	C

※敬称略 横不同

参加者名簿

氏名	団体名	チーム
南 陽子	茨城大プロジェクト さとみ・あい	A
山口 奈穂	茨城大プロジェクト さとみ・あい	A
山田 真理子	茨城大プロジェクト さとみ・あい	A
前田 竜甫	鹿嶋市青少年育成会議	A
楊 真結	子育て応援隊NS26(茨城キリスト教大)	A
照沼 菜津美	子育て応援隊NS26(茨城キリスト教大)	A
鹿島 拓人	トリプル・ユナイテッド	A
鎌田 等	だんどん和太鼓プロジェクト	A
柏木 仁男		A
井坂 勇方	いばらきキャンドルナイト	B
込山 慎一	茨城県農業研究クラブ連絡協議会	B
日熊 啓介	いばらきドリームクラブレベンション実行委員会	B
矢口 絵里	いわまユースチーム	B
仲村 勇佑	いわまユースチーム	B
小川 文太	いわまユースチーム	B
重田 一成	鹿嶋市青少年育成会議	B
千島 美友	鹿嶋市青少年育成会議	B
鬼沢 希	カタリ・いばらき	B
前山 直道	学び場さくら塾	B
高田 梢枝	Satoani文化祭	C
三森 洗喜	We are 潮沼っ子(茨城東高校)	C
生山 未来	茨城県障がい者スポーツ指導者協議会	C
鎌引 章夫	茨城大学学びと交流の秘密基地	C
川又 大生	茨城東高校	C
黒田 昌裕	おーちゃんドラゴン講演会事務局	C
比企 智浩	ゲスト・ワズjicca	C
宮谷 香純	水戸桜川千本桜プロジェクトニュース	C
井上 夢	水戸桜川千本桜プロジェクトニュース	C
高木 真矢子	茨女	C

若手社会人大募集!!

いばらきで、いきる。その背中をあつめたい

キッカケとされるナナムの茨城地域活動にキャリア教育という選択校を

学生と社会人の対話イベントを開催!

第1回 12/6(日) 13:00-17:00 チームを話さず

第2回 12/27(日) 13:00-17:00 自分を話さず

第3回 1/16(土) 13:00-17:00 オトナの限定

お問い合わせ先: katarika.ibarakip@gmail.com





市政

January 2016
vol.65

特集
大学との連携で進める地域活性化

市政ルポ
大野城市 / 悠久の歴史を共働でつなく
愛郷とにぎわいのまちづくり



全国市長会

市政

2016 January
CITY GOVERNMENT vol.65

■年頭のであひさつ
平成 28 年総務大臣年頭所感
全道市長会会長 島市市長 ● 森 民夫
鹿児島市長 ● 高市早苗
6

■特集
大学との連携で進める地域活性化
寄稿 1 大学との連携による地域活性化
高崎経済大学地域政策学専攻教授 ● 大宮 登
寄稿 2 外部との融合による地域力向上
地域と大学が連携した継続的な取り組み
常陸太田市市長 ● 大久保 太一
寄稿 3 都留市版生涯活躍のまち (CCRC) 構想
構想のキーポイントは「大学コンソーシアム」
都留市長 ● 堀内 誠久
寄稿 4 「彦根デザイン・カレッジ」の取り組みについて
彦根市長 ● 大久保 貴
寄稿 5 人と産業が集まり成長するまち
一産学官連携による新産業創出
飯塚市長 ● 齊藤 守史
第 15 回市長フォーラム「社会保障と都市の展望」
特別講演「労働供給制約の時代に」
慶應義塾大学都市学専攻教授 ● 清家 篤
10 3 37 34 31 28 25 22 21 6 4

■とておきー美しい都市の景観
「田科学金勇」能代市長 (新出題)
「新連載」こたわりの食材で Smart Life
豆腐ー最盛の大豆食品「TOFU」

市政ルポ
大野城市 (福岡県)
悠久の歴史を共働でつなく
愛郷とにぎわいのまちづくり
大野城市市長 ● 井本 宗司

表紙イラスト・山本 隆
本文イラスト・川合 三

JANUARY 2016 市政 18

C O N T E N T S

■市長選後記
健康寿命を延ばす、元氣な地域づくり
選挙区出陣委員会 中野市長・池田 茂 志木市長・香川 武文
藤原市長・北江 早 小村市長・奥田 武文
委員会・コトナイター ● 中央大学総合政策学専攻教授・総務助博

動き
■世界の動き イスラム国と新勢力が焦点、時事通信社元編集長 ● 金重 敏
■経済の動き TPPと地域活性化の手段として活用する 東京大学大学院教授 ● 伊藤 元重
■自治の動き 30 年後より 30 年前を見よ ジャーナリスト ● 松本 克夫

■法令相談室から
平成 27 年を振り返って
■マイ・フライベイトタイム
新庄をもち元氣に！
■わが市を語る
◆可能性をかし、人と財が集まる山南半島ブランドを創出 山形市長 ● 長部 誠
◆人・地域・地域・自然が集まる、和みのまち、山梨市 山梨市長 ● 大日野 紀
◆住んでよかったと思える丸なまちづくり 南都留市長 ● 松本 政博
◆住み続けたいまち・住んでみたいまちの実現を目指して 南都留市長 ● 松本 政博

■時代を駆け抜けた偉人たち
お季行日和 民政家 川路 嘉郎
■編集後記
■市政キャリイー 都市の素顔
【平戸港】長崎県

■都市のリスクマネジメント
地域防災の観点からのリスクマネジメント
総務省消防庁消防大学校専攻員 ● 日野 宗門

■全国市長会の動きーMayors' Action
■平成 28 年度における東日本大震災に関する被災地支援に対する人的支援について (傍聴) 79
■これぞ！イチオシ (新島市) 80

19 市政 JANUARY 2016

特集

大学との連携で進める地域活性化

地域活性化、地方創生の一翼を担うパートナーとして大学が近年、重要性を増しています。文部科学省は、自治体と連携した教育・研究、地域貢献を進める大学を支援する「(地)知の拠点整備事業」(COC 事業)を推進。総務省も、大学生と大学教員が地域の現場に入り、地域の課題解決や地域づくりに継続的に取り組んでいます。

今回の特集では、最近の動向を省みて、大学と都市自治体の連携によるまちづくりの重要性や具体的な都市事例をご紹介します。

寄稿 1 大学との連携による地域活性化
高崎経済大学地域政策学専攻教授 ● 大宮 登

寄稿 2 外部との融合による地域力向上
地域と大学が連携した継続的な取り組み
常陸太田市市長 ● 大久保 太一

寄稿 3 都留市版生涯活躍のまち (CCRC) 構想
構想のキーポイントは「大学コンソーシアム」
都留市長 ● 堀内 誠久

寄稿 4 「彦根デザイン・カレッジ」の取り組みについて
彦根市長 ● 大久保 貴

寄稿 5 人と産業が集まり成長するまち
一産学官連携による新産業創出
飯塚市長 ● 齊藤 守史



21 市政 JANUARY 2016

外部との融合による地域力向上 地域と大学が連携した継続的な取り組み

ひたちのおおた
常陸太田市長（茨城県）

おおくほたいち
大久保太一



はじめに

常陸太田市は茨城県北部に位置し、北は福島県に接している。本市の総面積は371.99km²で、茨城県全体の6.1%を占め、南北40km、東西15kmの広がりを持ち茨城県内で一番広大な市となっている。豊かな自然環境と古くから続く歴史と文化にあふれた地域であり、平安時代末期から約470年間は、県北地方一帯を支配した、常陸の豪族、佐竹氏の本拠地として繁栄し、江戸時代に入ると、水戸黄門こと徳川光圀が晩年を過ごした西山御殿跡（西山荘・国の文化審議会において史跡及び名勝に指定するよう答申）などがあり、市内各所に歴史や文化の足跡をたどることができる史跡等が数多く残されている。

現在の本市は、平成16年12月に旧金砂郷町、旧水府村、旧里美村と合併した。本市が抱える最大の課題は少子化・人口減少対策であり、合併時6万人を超えていた人口が、



農家を「講師」にした学生による畑作業

5万2049人（平成27年10月1日現在）にまで減少している。本市は、合併以降、合併効果を最大限に生

かしながら、新市の一体感の醸成を図り、住民福祉の一層の向上を目指すため、平成19年3月「常陸太田市第5次総合計画」を策定した。この計画では、市民と行政が一緒になって考え行動する「市民協働によるまちづくり」と、市の恵まれた自然環境や風景・景観、歴史文化などの地域資源を活用する「エコミュージウム活動によるまちづくり」を市政運営の基本として位置付け、地域活性化およびその源泉である地域力の向上に取り組んできた。

近年、国においても、地域活性化の源泉としての地域力（特に地域資源力と人材力）の維持・向上を後押しする施策が多数展開されてきており、本市においても、これまでの地域力向上の取り組みを強化し、発展させるという観点から「地域おこし協力隊」や「域学連携地域づくり実証研究事業」などの活用により活性化に取り組んでいるところである。

これまでの大学連携の取り組みと課題

本市では、専門的な知識を有する大学の参



市内飲食店が考案したメニューに材料を提供した「かぼちゃフェス」

画を得ながら、市民協働によるまちづくりを推進すべく、県の内外を問わず、積極的に大学との連携を進めてきた。

とりわけ、茨城大学、茨城キリスト教大学、常磐大学の県内の近隣大学とは、市エコミュージアム活動への学生の参加や地域団体等と連携したイベントの開催または開催支援等、積極的に連携して取り組んできたところである。

しかし、茨城大学人文学部、茨城キリスト教大学、常磐大学とは連携協定を締結しているものの、各種活動が大学のカリキュ

ラムとしては位置付けられておらず、単位の取得にはつながらないことから、あくまで学生の自主性に委ねる形の参加となり、また、活動ごとにその都度学生に募集をかけるなど単発での連携となることが多く、継続的な事業の実施が課題となっていたところである。

「域学連携地域づくり実証研究事業」導入の経緯と本事業の特徴

このような状況の中、平成24年度に総務省において「域学連携地域づくり実証研究事業」の創設をきっかけとして、茨城大学からの提案により、本市の里美地域をフィールドとした、大学において単位化を伴う、持続可能なカリキュラムの構築を目指し、実証研究に取り組むこととなった。

本事業の特徴としては、茨城大学、茨城キリスト教大学および常磐大学の学生が、継続的に里美地域を訪問し、現地体験学習、地域資源の調査研究、課題論文の作成等を行うことにより、大学の単位が認定されるプログラムの開発を行うこととし、単位化を図ったことにある。

また、このプログラムの受け入れにあたり、当初は地域おこし協力隊との連携を図り、地域おこし協力隊が当該地域で感じた地域の魅力を授業内容に組み入れることで、学生にとっても魅力的なプログラムの構築がなされている。

具体的な活動

具体的には里美地区において、里美地区の里川町で採れる「里川カボチャ」を使った生産ブランド化への取り組みを中心に行った。「里川カボチャ」は常陸太田市の里川町で採れる在来作物で、近年まで他品種との交雑が進み、本来の食感や風味、甘味、色などが失われつつあった。それらを地域住民の手で本来の「里川カボチャ」の姿を取り戻す取り組みが行われていたものである。そうした地域に学生が定期的に訪れ、地域住民と交流しながら、作物の生育から商品化まで一貫した取り組みをすることで、地域住民との絆が生まれ、また学生のコミュニケーション力や就業力の向上にも一役買っている。

また学生と生産者が一体となった活動により、市内の飲食店が地場産農産物を使い、オリジナルメニューを提供する「ファーム&キッチン」に食材として活用され、さらには市内で行われる「汁椀カップ」への出展や水戸市の水戸まちなかフェスティバルや大学文化祭、東京・六本木ヒルズの「いばらき市」での販売など市内はもとより市外でも販売・PRが行われている。

これらの活動においては、多数の地元住民が参加しての活動報告会が行われているほか、茨城県立水戸農業高等学校の生徒が一部のフィールドワークに参加するなど広がりを見せている。



地域の方と学生も参加した収穫祭

平成24年度においては、実証研究として取り組んだが、平成25年度より茨城大学の正課授業「プロジェクト実習」の一部に位置付けられ、茨城キリスト教大学および常磐大学でも履修が可能なカリキュラムとなり、単位化が可能となっている。

期待される地域へのメリット

本事業における地域へのメリットは、ワカモノ、ヨソモノである学生の視点から新たな

魅力が発見され、また、各種の地域資源が研究の対象となり、保存されることで、地域資源力の向上が期待される。学生が地域に入り、地域住民と関わることで、地域住民自らが地域資源を見つめなおす契機ともなる。

また、地域内において、調査を進めるにあたり、地域の集落のリーダーや年長者などを対象に聞き取り調査を行う機会も多いと考えられ、そうした取り組みの中で貴重な知識や経験を持つ地域人材の発掘につながるなど、地域人材力の向上にも寄与するものと考えられる。

このようにプログラムの開発・実施に取り組むことは、地域力の向上が図られるとともに、それらの地域力を活用した交流人口の拡大による地域活性化にも貢献するなど、持続可能な地域社会の構築にも大きく貢献するものである。加えて、里美地域が取り組みのモデル地域として確立されれば、同じく地域力の低下が懸念されている金砂郷地域や水府地域への波及も期待されることである。

大学および学生へのメリット

現在、大学教育においては、就業時に即戦力となり得る「就業力」の育成が求められている。「就業力」とは、学士課程教育で培われた学問智を実社会において実際に使っていくことができる能力である。この能力の育成には、これまでのような大学の講義室内で行わ

れる一方的な知識獲得型の講義では不十分であり、プロジェクト実習のような、実社会での体験を通じた学習に重きを置いたプログラムを開発することが必要とされており、本事業の実施は、学生のキャリア教育を担う大学および学生の双方にとって、大きなメリットになるものと考えている。

おわりに

本市では、少子化・人口減少に対処するため、「子育て上手 常陸太田」をキャッチフレーズに新婚家庭家賃助成や住宅取得時の助成、保育園・幼稚園の保育料の軽減、高校生までの医療費助成など、子育て世帯への経済的支援や妊娠から出産・育児までの切れ目のない支援を中心に対策を講じてきている。そうした取り組みとともに、人口減少の進行に伴う地域の活力低下に対して、地域おこし協力隊や域学連携などの地域力の維持・向上を狙ったさまざまな取り組みを進めてきているところである。地域力向上の取り組みは長丁場であり、今求められていることは、本市がこれまで独自に積み重ねてきた地域力向上の取り組みと域学連携や地域おこし協力隊などの取り組みを融合し、深化させ、長期的に定着を図ることである。地域力向上の新たな取り組みについて今後もその可能性を模索していきたい。

プロジェクト実習
先進地実地研修

鈴木 敦 atsushi.suzuki,
8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

お陰様で
プロジェクト実習は
4周年

2

井の中の蛙



3

西高東低・同志社大
東の雄・山形大
役者揃いの東京周辺

4

先進地に学べ！
教員は
公費出張

5

先進地に学べ！
学生は
自腹で
行け！



そ、そんな
無茶な！



学生にこそ

先進地に
学ぶ機会を！

8

1:自らが学ぶ

2:仲間に還元

9

先進地実地研修
(近郊)

東京近郊
全員参加が原則

10

先進地実地研修
(遠郊)

関西～東北
代表者若干名

11

2015年度は
近郊：東京・拓殖大

社会人基礎力育成
グランプリ2016
関東地区予選大会
<https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/index4.html>
参観



12

遠郊：山形・金山町

現地講師によるレクチャー・現地見学・
大学環ネットかねやまフォーラム2015参観



お世話になりました
たくさんの方々に
心より感謝申し上げます

14

では！

15

2015年度
先進地実地研修
遠郊

山形県最上郡金山町

16

報告へ
行ってみよう！

∠(-o-)∕

17

ご清聴
感謝申し上げます

鈴木 敦 atsushi.suzuki.
8115@vc.ibaraki.ac.jp

18

先進地実地研修

箭内 淳美
山口 未来
南 陽子



1

目次

- 研修概要
- 研修目的
- 金山町について
- 活動報告と学んだこと
 - 1日目, 2日目, 3日目
- 地域の比較
- チームの比較
- 全体を通して学んだこと
- 里美に活かしたいこと

2

目的



•先進地実地研修とは...?

プロジェクト実習と親和性の高い目的・形態で実施されている他大学の取り組みを参観し、これまでの自らの取り組みと比較検証することを通じて、プロジェクト実習はもちろん、各人の今後の勉学・諸活動に活かすべき「学び」を得ることを目的として2013年から実施されている。

今年度は先進的な取り組みを行っている山形県金山町にて研修を行うことで、様々な地域連携事業を見学し、そこで得たものを今後の活動に活かしていくことを目指している。

3

研修概要

- 1日目
 - △ 金山杉の見学
 - △ 「道草ぶんこう」にて樋口勝也先生（元・金山町教育長）、蜂屋大八先生（茨城大学プロジェクト実習B創始者・宇都宮大学特任准教授）によるレクチャー
- 2日目
 - △ 「金山きごころ工房」にて岸欣一様による金山杉を活用した作品に纏わるレクチャー・工房見学
 - △ 山形大学・チーム道草のメンバーと交流・市街地見学
 - △ 「大学環ネットかねやまフォーラム2015」への参加
 - △ フォーラム懇親会への参加
- 3日目
 - △ 日輪舎見学

4

金山町について



<http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/webblog/00/>

- 「町並み景観づくり100年運動」
- 在来作物
- エリアキャンパスもがみ

- 人口
およそ6,200人
- 面積
161.79平方km



金山住宅

5

活動報告 1日目（12月26日）

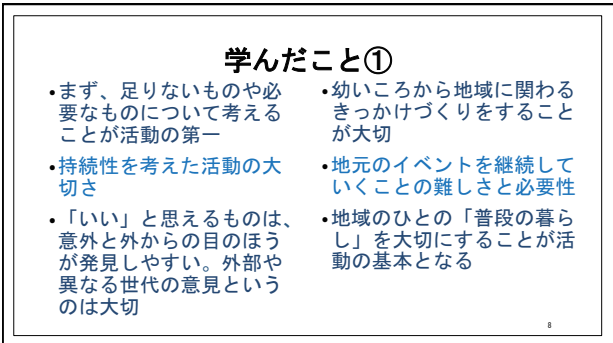
- ① 金山杉の見学
講師：金山町教育委員会 沼澤尚史様
- ② 「道草ぶんこう」にて「エリアキャンパスもがみ」、「大学環ネット金山」について立ち上げのレクチャー
講師：樋口勝也先生、蜂屋大八先生

6



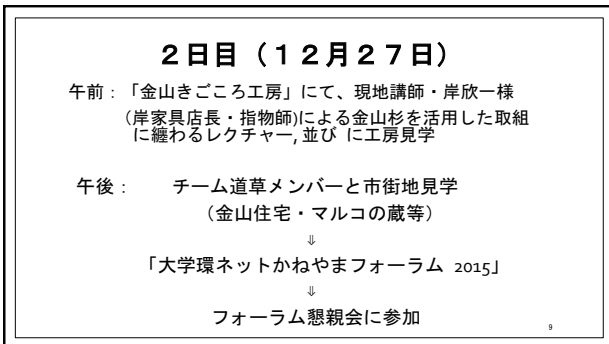
写真①

左: 金山杉見学
右: 道草ぶんこう



学んだこと①

- まず、足りないものや必要なものについて考えることが活動の第一
- 持続性を考えた活動の大切さ
- 「いい」と思えるものは、意外と外からの目のほうが発見しやすい。外部や異なる世代の意見というのは大切
- 幼いころから地域に関わるきっかけづくりをすることが大切
- 地元のイベントを継続していくことの難しさと必要性
- 地域のひとの「普段の暮らし」を大切にすることが活動の基本となる



2日目 (12月27日)

午前: 「金山きごころ工房」にて、現地講師・岸欣一様 (岸家具店長・指物師)による金山杉を活用した取組に纏わるレクチャー、並びに工房見学

午後: チーム道草メンバーと市街地見学 (金山住宅・マルコの蔵等)

↓

「大学環ネットかねやまフォーラム 2015」

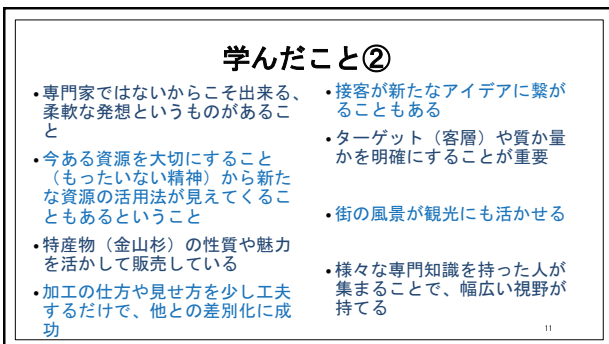
↓

フォーラム懇親会に参加



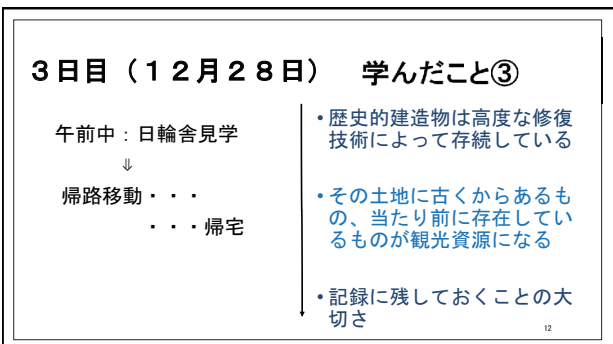
写真②

左: 岸欣一様のレクチャー
中: 「大学環ネットかねやまフォーラム2015」
右: フォーラム懇談会



学んだこと②

- 専門家ではないからこそ出来る、柔軟な発想というものがあること
- 今ある資源を大切にすること (もったいない精神) から新たな資源の活用が見えてくることもあるということ
- 特産物 (金山杉) の性質や魅力を活かして販売している
- 加工の仕方や見せ方を少し工夫するだけで、他との差別化に成功
- 接客が新たなアイデアに繋がることもある
- ターゲット (客層) や質量を明確にすることが重要
- 街の風景が観光にも活かせる
- 様々な専門知識を持った人が集まることで、幅広い視野が持てる



3日目 (12月28日) 学んだこと③

午前中: 日輪舎見学

↓

帰路移動・・・

・・・帰宅

- 歴史的建造物は高度な修復技術によって存続している
- その土地に古くからあるもの、当たり前が存在しているものが観光資源になる
- 記録に残しておくことの大切さ

写真③

日輪舎見学の様子



13

地域の比較

- 地域を良くしたいと考えるリーダーがいる
 - 自分の地域をどうにかしたいという意識がある
 - 自分の地域に誇りを持っている
 - 地域の人が学生の活動をあたたかく受け入れてくれる
 - 地域資源や在来作物がある
 - 中山間地域、少子高齢化、中心市街地からの距離
- ⇒里美と金山には共通点が多い。しかし金山における地域と大学の連携に比べて里美でのそれはまだまだ発展途上。
したがって今後のさとみ・あいの活動や大学全体の地域連携として金山から学べることは多いのではないかと。

14

プロジェクト実習（さとみ・あい）とチーム道草

	さとみ・あい	チーム道草
運営形態	授業の中の1グループ	サークル
人数	12人	約50人
メンバーの所属	3大学連携を旨とする 主に茨城大学人文学部	山形大学の様々な学部 (人文、教育、工、理など)
活動費	授業予算+助成金を自ら取得 (過去に常務ビジネスアワード、今年度は企画提案チャレンジ支援事業の助成金を取得)	助成金を自ら取得
結成の経緯	プロジェクト実習 →地域おこしに携わりたいという有志でグループ結成 →里美に出会う	フィールドワーク共生の森最上 →金山町に出会う →地域に関わり続けたい仲間 →サークル結成
活動内容	少人数であるゆえ、地域に密着した活動に厳選	メンバーの興味関心に対応した多岐にわたる活動

15

学んだこと（全体）

- 街並みそのものを地域の魅力にするという発想
- 人を呼び込むために無理に開発をするのではなく、そこにある普通の生活を大切にするという考え
- 地域資源（モノやヒト）を活かす
- 仲間（同士）を増やすことで人脈・規模の拡大
- 積極的に取り組んでいるひとがいるとどんどん活動的なひとが集まってくる→きっかけとなるひと・ことは大事
- 地域に自分たちが自信を持つことが必要

16

里美での活動に活かしたいこと

- 廃校の利用
- 地域の住民が集まれる場をつくる
→集まることでなにかを起すきっかけになるかもしれない
- 民泊の実施
→学生や外部のヒトが地域に溶け込むきっかけ作りとなる
- 世代間交流や様々な役割の人の交流
- 他企業・他業界とのコラボ
- ターゲットを絞る
- 持続性（リピーターの確保）

17

具体例①廃校の活用

『人の集まる場』

金山

教育文化資料館、道草ぶんこう、四季の学校谷口として
廃校を地域住民が気軽に集える場所として再利用
例)造形教室、公民館、宿泊所、農業体験、学校、伝統料理の提供

里美

廃校の利活用の可能性
伝統料理の提供、在来作物を使った料理の提供
農業体験、交流所里美案内所



学校統廃合(1947以降)

水戸市1、日立市10、土浦市4、古河市3、石岡市5、
結城市1、龍ヶ崎市1、下妻市3、常総市3、**常陸太田市14**、
高萩市3、北茨城市4、笠間市13、取手市11、牛久市5、
つくば市3、潮来市3、守谷市1、常陸大宮市26、那珂市3、
筑西市6、坂東市4、稲敷市6、かすみがうら市3、桜川市2、
神栖市2、**行方市15**、小美玉市2、**東茨城郡15**、久慈郡12、
稲敷郡2、結城郡2、猿島郡5、北相馬郡2

19

具体例②特産物につける付加価値

⇒里美だからこそできるものに付加価値を見出す

→里川かぼちゃなどの在来作物・風景・滝etc...

金山町...もともと有名であった金山杉にマネできない
付加価値をつけた。

里美地区...気候や里美に住んでいるひとだからこそ持っている知識を
活用して、現在あるものに付加価値をつける

EX)里川かぼちゃの**ピンク色**の見た目を利用した「食べておいしい、
飾ってかわいいかぼちゃ」としての広報活動

地域に受け継がれてきた伝統料理・自慢の料理を共有する

→普段食べている料理でも「伝統的なもの」として
付加価値がつく



御礼

蜂屋大八先生、
樋口勝也先生、
沼澤尚史様、
並びに金山町教育委員会の皆様、
岸欣一様、
金山町町長鈴木洋様、
チーム道草の皆様、懇談会参加の皆様

21

ご清聴ありがとうございました



2015年度 先進地実地研修(遠郊) しおり

(1/4縮小)

2015年度 プロジェクト実習 先進地実地研修(遠郊)



2015年12月26日-28日
山形県最上郡金山町

I: 趣旨説明

1: 目的

先進地実地研修は、プロジェクト実習の一環として2013年度から実施しています。プロジェクト実習履修生の全員参加を原則として東京近郊で実施する「近郊」と、履修生代表者若干名により東北地方〜近畿地方で実施する「遠郊」の、二種類が準備されています。そのいずれも、目的とする所は

プロジェクト実習と親和性の高い目的・内容・形態で実施されている他大学の取り組みを参観し、これまでの自らの取り組みと比較検証することを通じて、プロジェクト実習は勿論、各人の今後の勉学・諸活動に活かすべく学びを得ること

にあります。

このしおりの「IV: 担当教員より」にも記しているように、「ほんやりと付いていくだけ」では、多分、何も見えてきません。「ここで何を見つめるのか」「何を掴むのか」を常に意識しながら活動して下さい。

2: 今年度の参観対象

2015年度先進地実地研修(遠郊)では、山形県最上郡金山町をフィールドに展開されている地域連携FHLならびにその背景となる域学連携活動について、先進の大学・地域の取組に学びます。

金山町は、プロジェクト実習Bのフィールドである常陸太田市理美地区以上に山深く交通不便な上、有数の豪雪地帯でもあります。しかし、山形大学「エリアキャンパスもがみ」の活動に加え、近年は「大学環ネットかねやま」の結成により遠隔地の大学とも積極的に連携する等、活発な取り組みが目まぐるしく見られています。

今回の研修では、「大学環ネットかねやまフォーラム2015」への参加を核に、エリアキャンパスもがみの設立を地元教育界隈から積極的に推進された樋口勝也・元金山町教育長先生、地元名産の金山杉の活用に取り組んでおられる「金山きごころ工房」岸欣一様のレクチャー、山形大学の1年次向けFHL授業「フィールドワーク共生の森もがみ」をきっかけに結成された、地域貢献に取り組む学生グループ「チーム道草」メンバーの皆さんとの交流等、様々な切り口から当地の地域連携FHL・域学連携事業を学ぶ機会を設定しています。ぜひ積極的に取り組んで下さい。

3: 謝辞

今回の研修プログラムは、2012年に本学プロジェクト実習Bを設計・立ち上げて下さった、元本学大教センター准教授で、現在は宇都宮大学基盤教育センター特任准教授の蜂屋大八先生の全面的なご支援により、実現することができました。実施に当たっては、本学「教育改革推進経費」から予算配分を戴いています。末尾ながら、記して感謝申し上げます。

II: 全体日程表

12月26日

- 7:34-14:30 移動
(JR 水戸 7:34-9:06 小山 9:25-9:51 宇都宮 10:38-13:16 新庄
(現地送迎) 14:30 「道草ぶんこう」着
- 14:45-16:45 現地講師によるレクチャー
「道草ぶんこう」にて、樋口勝也氏(元・金山町教育長)より、「山形大学エリアキャンパスもがみ」立ち上げと「大学環ネットかねやま」結成への経緯等についてレクチャー
*山形大学エリアキャンパスもがみ <http://www.yamagata-u.ac.jp/gakum/vstxt/>
*大学環ネットかねやま http://yamagata-nn.jp/news/201501/02/kj_2015010200019.php
- 17:00-19:00 夕食及び移動(道草ぶんこう→市街地→ホテル)
- 19:30-21:00 ホテル(シェネスハイム金山)チェックインの後、現地関係者との交流会

12月27日

- 9:30-10:00 朝食後、市街地へ移動
- 10:00-12:00 「金山きごころ工房」にて、現地講師・岸欣一氏(岸家具店社長・指物師)による金山杉を活用した取組に纏わるレクチャー、並びに工房見学
*金山きごころ工房 <http://maganinmagn.com/hi/ki/ri/chi-ki-shi/>
- 12:00-13:00 昼食
- 13:10-14:00 学生: チーム道草メンバーと市街地見学(金山住宅・マルコの蔵等)
教員: フォーラムの打ち合わせ(町民ホール)
- 14:00-16:30 「大学環ネットかねやまフォーラム2015」(町民ホール)
- 16:30-17:30 大学環ネットかねやま協議会(町民ホール)
- 17:30-19:30 フォーラム懇親会(金山町市街)
- 19:30-20:00 ホテルへ移動
- 21:00-22:30 情報共有とリフレクション
- *27日の活動は、山形大学エリアキャンパスもがみの教育プログラム「フィールドワーク共生の森もがみ」受講経験者が結成した地域連携・地域貢献を目的とする学生チーム「チーム道草」メンバーと交流しつつ実施する予定です。

12月28日

- 9:00-9:15 朝食後、移動
- 9:15-10:00 日輪舎見学
- 10:00-16:35 移動
(現地送迎) 10:45JR新庄着
- (JR 新庄 11:17-13:58 宇都宮 14:06-14:32 小山 15:03-16:15 友部 16:20-16:35 水戸

当日の緊急連絡は、鈴木敦の携帯(XXX-XXXX-XXXX)へお願いします。

III: 大学環ネットかねやまフォーラム2015 概要

期日: 平成27年12月27日(日) 14:00~16:30
場所: 金山町役場町民ホール(山形県最上郡金山町大字金山324-1)

趣旨: 金山町では、平成25年度総務省域学連携事業の採択を受け、東京およびその近郊の大学との連携事業を始めました。この事業を契機に、平成26年、金山町が持つ地域の教育的意義や研究的価値に着目した各大学の研究者が、分野を超えて交流し、金山町の地域的価値を高めるための連携組織「大学環ネットかねやま」を設立しました。このフォーラムは、金山町民に対し、平成27年度において各大学が行った事業の成果を報告すると共に、参画する各大学・研究者が、次年度意向の事業展開に関する見通しを共有し、より高度な連携事業に結びつけるために開催するものです。

内容:

- 挨拶 金山町長 鈴木 洋
- フォーラム 進行 金山町まちづくりアドバイザー(宇都宮大学) 蜂屋大八
 - 集落資源の調査による価値化・博物館資料化
横浜国立大学 教授 大原一興
 - 金山町の美しい連続景観とその価値、保全の可能性
東京工業大学 准教授 齋尾直子
 - 「森と町と人のミュージアム」ワークショップの可能性
聖心女子大学 准教授 杉原真晃
 - 金山町の地域資源を学生達がどう捉えたか
筑波大学 准教授 上田孝典
 - 金山町の地域資源を活用したフットパス構想
宇都宮大学 准教授 高橋俊守
 - 大学環ネットかねやま構想と今後の展開
宇都宮大学 特任准教授 蜂屋大八
- 質疑および意見交換
- 閉会

対象: 金山町民、高等教育機関関係者、学生、その他
主催: 金山町
申し込み先: 金山町教育委員会教務課 担当 沼澤尚史
電話 XXXX-XX-XXXX
問い合わせ先: 宇都宮大学基盤教育センター 蜂屋大八
Mail xxxxx@cc.ut.sunruiya-u.ac.jp

IV：担当教員より

1：基本姿勢

(1)意識して行動しよう

・「ほんやりと付いていだけ」では、多分、何も見えてきません。「ここで何を見つけるのか」「何を掴むのか」を常に意識しながら活動して下さい。

(2)現地では得られない情報を集めよう

・書籍やネット等では得られない、「その時・その場でこそ得られる情報」を集めましょう。
→例えば、金山町の方々と・金山町の風土の中でお話しすることは、現地ではできません。

(3)しっかりと・こまめにメモを取ろう

・「見つけた（ような気がするもの）」「掴んだ（ような気がするもの）」は、そのままではほんやりとしています。メモを取る＝言語化し文字化することで、初めてハッキリとした像を結びます。
・人間の記憶というものは、それはそれは頼りないものです。メモを取らなければすぐに消えていってしまいます。写真を撮っても、それが「何を意図した・何の写真なのか」のメモを取っておかないと、後日「何でこんな写真を撮ったんだろう？」ということになってしまいます。

2：持ち物・必要経費

・保険関係：健康保険証（のコピー等）を必ず持参してください。また、学障災・学障賠への加入は、プロジェクト実習の履修要件です。念のため確認して下さい。
・現金：交通費、宿泊費（3名同室です）、現地での食事代、27日の懇親会費等
・衣類・靴：行き先は冬の豪雪地帯です。防寒具並びに雪に強い靴を準備して下さい。
・研修道具：筆記用具、メモ帳、カメラ等
・その他：傘/カッパ・使い捨てカイロ・常備薬等、各自の事情に合わせて準備して下さい。

3：レポート作成に向けて

研修後は

(1)各自2,400字程度を目処に活動報告書を纏めて下さい。

→次ページの指示書に従って下さい。

(2)1月31日に予定されているプロジェクト実習Bの活動報告会で、報告して下さい。

→発表時間10分をお願いします。

20151226-28 先進地実地研修（遠郊）ミニレポート作成指示書

20151224 鈴木敦

レポートは、以下の要領で作成して下さい。

1：レイアウト・布字・字数等

ワードでA4タテ・横書き

余白は上下左右各 23・21・20・20

45字/行 48行/ページ

基本的にMS明朝・10.5ポイントとするが、必要に応じて変更可。

*要するに、この指示書の体裁と同じです。

必要に応じて写真・図表等を盛り込む

写真・図表等を除いて「2,400字程度」（文字カウント機能で確認して下さい）

*題名・氏名も文字数に加えます。

2：ファイル名・送信先・締切等

ファイル名：2015先進地実地研修（遠郊）(氏名)

送信先：鈴木敦 xxxxxxxx@c.ibaraki.ac.jpへ添付ファイルで

締切：2016年2月22日（月）23:00

3：レポート冒頭の体裁について

(1)第一行に<中央揃え>で題名を記して下さい。

*文章の内容に沿った題名を考えて下さい。「先進地実地研修に参加して」式の、<小学生の夏休みの日記のような>f(〃); 題名は避けて下さい。

(2)第二行に学籍番号氏名を<右寄せ>で記して下さい。

(3)第三行から本文を記して下さい。

*これまた、この指示書の体裁と同じです。

4：内容

今次研修で、「これを学んだ・今後に活かしたい」ということを記して下さい。

(1)「旅行記」にならないように。「学びの記録」になるように注意して下さい。

(2)今回の研修はコンテンツが豊富です。

①研修全体への言及は必ず盛り込んで下さい。

②その上で、必要に応じて特定のコンテンツに絞っての言及を記して下さい。



農業高校におけるプロジェクト学習 ～里川カボチャを事例に～

茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科 新堀俊博

県内の農業関連高校の所在地



農業関連高校における農業を学べる学科

学校名	設置学科
大子清流	森林科学科・総合学科(農業系列) 農業科・畜産科・園芸科・ 生活科学科・農業土木科・食品化学科・農業経済科
水戸農業	定時制農業科
銚田農業	農業科・食品技術科・流通情報科
石岡第一	園芸科・造園科
真壁	農業科・環境緑地科・食品科学科
坂東総合	総合学科(生物資源系列・環境デザイン系列)
江戸崎総合	総合学科(グリーンテクノ系列)

※総合学科は、2年生から農業に関する科目を学んでいきます

文部科学省 高等学校学習指導要領 (平成21年3月告示)

各教科	各教科に属する科目
農業	農業と環境・課題研究・総合実習・農業情報処理 作物・野菜・果樹・草花・畜産・農業経営・農業機械・ 食品製造・食品科学・微生物利用・ 植物バイオテクノロジー・動物バイオテクノロジー・ 農業経済・食品流通・ 森林科学・森林経営・林産物利用・ 農業土木設計・農業土木施工・水循環・ 造園計画・造園技術・環境緑化材料・測量・ 生物活用・グリーンライフ

※上記以外でも、各高校において必要と判断した科目については、「学校設定科目」として実施

高等学校学習指導要領解説 農業編(平成22年6月)

○第2節 教科の目標

- 第一に、目標をもった意欲的な学習を通して、農業に関する知識、技術の定着を図り、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を身に付けさせること。
- 第二に、学習に取り組む主体的な態度や合理的な思考及び倫理的な姿勢を身に付けた、将来の地域を支える人間性豊かな職業人を育成すること。
- 第三に、農林業の多様化・高度化・精密化、安全な食料の生産と供給、地球規模での環境保全及び地域資源の活用など、社会の変化や農業教育の広領域化へ対応すること。

上記の三つの目標(視点)を基本とし、各教科を通して横断的な展開を図る。

課題解決(プロジェクト)学習について

○プロジェクト学習とは

生徒が主体的に学習する学習方法 教員は助言者

○プロジェクト学習の流れ

課題の設定→計画の立案→実施→反省・評価→改善

○プロジェクト学習で得られる教育的効果

学習に対する面白さ・楽しさを実感
 チーム等のグループの仲間意識の向上
 企画力・実践力の育成・向上
 “わかる”の実感

里川カボチャの商品開発に携わる経緯

○平成26年6月

株式会社JTB関東法人営業水戸支店
水戸誘客促進・活性化事業担当 西島佳子様

○平成26年7月

茨城大学 人文学部 鈴木 敦先生

食品化学科食品科学部の活動の記録をお聞きください！

里川カボチャ ～おいしく魅力を引き出そう！～

茨城県立水戸農業高等学校
食品化学科 2年
食品科学部

活動目的

- 里川カボチャの良さを十分引き出せる
お菓子の商品開発をする。

「初めまして～試食会までの流れ」

月 日	内 容
7月4日	茨城大学 鈴木先生と初対面・趣旨および概要説明
8月4日	茨城大学 さとみ・あいチームと初対面・活動内容説明
8月23日～25日	夏合宿に参加
9月19日	打ち合わせ2回目
9月22日	干しかぼちゃの試作開始
9月30日	かぼちゃのようかんの試作開始
10月1日	かぼちゃのタルトの試作開始1回目
10月3日	カボチャのタルトの試作 2回目
10月9日	かぼちゃのマフィン・スコーンの試作
10月10日	かぼちゃパイの試作

1年目 試作したもの(2014年度)

- カボチャのタルト
- カボチャのパイ
- カボチャのけんぴ
- カボチャのスコーン
- カボチャのクッキー
- カボチャのようかん

「しさく・シサク・試作…」



商品開発の難しさにぶ・つ・か・る

本当に
「里川カボチャ」の魅力って...??

「...甘さ!?

...色!?

...何!??」

「試食会～本番までの流れ」

10月12日	試作 試食会 (スコーン・ケンピ・タルト・パイ)
10月19日	里川カボチャの収穫祭へ参加
10月29日	タイの先生の特別講義 (かぼちゃのデザート)
11月4日～7日	カボチャのタルトの試作
11月9日～12日	原材料の価格調査及び原価計算
11月13日	カボチャのタルト作成
11月15・16日	茨城大学 茨苑祭 水戸農業 水農祭

「ここから選んでもらおう！」



「たくさんの人に出合ってね…」



里川カボチャのタルト 完成品

良い点・悪い点

- 試作がたくさんできた。
- 里川カボチャの甘さを活かすように砂糖の量を少なくした。
- 定期的に活動できなかった。
- 作る前の準備が遅かった。
- 効率が悪かった。

「感想…」

- 入学して早々商品開発をすることになってビックリした
- 調理が好きだけでは商品開発ができないことを実感した
- 大変だったけど充実していた
- 慌ただしく過ぎて行ってしまった感じ
- とっても「甘～い」ことにびっくりした

「考察」

- ・アンケート調査などを実施してより具体的な結果を知る
- ・里川カボチャを利用活用している企業での研修を行う
- ・里川カボチャの商品開発に利用可能な食材を校内で栽培する
- ・長期保存が可能な商品を開発する

今年1年間のまとめ(2015年度)

茨城県立水戸農業高等学校
食品化学科 2年
食品科学部

今年度の流れ

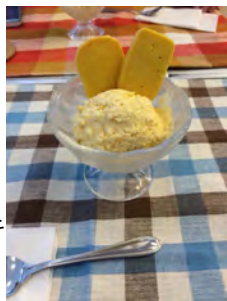
9月9日	里美カフェ用試作 (スイートパンプキン・ジェラート・クッキー)
9月23日	里美カフェ 本番(ジェラート・クッキー)
10月17日	収穫祭(常陸太田市里美地区)
10月21日	水戸まちなかフェス用試作・試食会 (スイートパンプキン)
10月23日	水戸まちなかフェス 本番 (スイートパンプキン)
11月4日	試作(マドレーヌ・タルト)
11月9日	茨城大学 茨苑祭 水戸農業 水農祭 本番 (マドレーヌ・タルト)
11月14・15日	茨城大学 茨苑祭 水戸農業 水農祭

今年度の流れ

11月20日	外部講師による製菓実習 (マドレーヌ・ブルーベリームース)
12月2日	茨城県農業関連高校「学校産・地元産食材を使ったスイーツコンテスト」用 試作(モンブラン)
12月15日	スイーツコンテスト 本番用 (モンブラン)
12月16日	スイーツコンテスト当日
1月20日	2015年度プロジェクト実習報告会用 試作(シュークリーム)
1月27日	試作(ミルクレープ・マドレーヌ・プリン)
1月30日	本番(マドレーヌ・シュークリーム)
1月31日	報告会

2年目 試作したもの

- ・かぼちゃのジェラート
- ・かぼちゃのクッキー
- ・かぼちゃのタルト
- ・かぼちゃのマドレーヌ
- ・かぼちゃのモンブラン
- ・かぼちゃのシフォンケーキ
- ・かぼちゃのミルクレープ
- ・かぼちゃのスイートポテト



良い点・悪い点

- ・かぼちゃ感がupした。
- ・発想が豊かになった。
- ・行事の集まりが悪かった。
- ・計画性がなかった。

里川カボチャのモンブラン 使用する材料(4個分)

・かぼちゃのクリーム ・カスタードクリーム

里川かぼちゃ	220g	卵黄	1個
グラニュー糖	30g	グラニュー糖	36g
生クリーム	20g	小麦粉	7.2g
バター	20g	牛乳	100cc

・下生地

卵	2個
小麦粉	50g
グラニュー糖	40g
バター	19g
牛乳	100cc

・ホイップクリーム

生クリーム	100cc
-------	-------

作り方

カボチャのクリーム

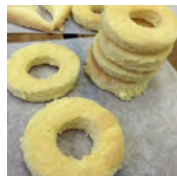
里川カボチャの皮をむき蒸す。
その後、裏ごしをする。

裏ごしをしたものに、
バター、グラニュー糖、生クリームを加え
全体がなじむまで混ぜる。



下生地

卵と砂糖を泡立てる。
卵と砂糖が立ったら、
そこに振った小麦粉を混ぜる。
小麦粉が混ざったら、バター、牛乳を加え
さらに混ぜる。
出来上がった生地を予熱がすんだ
165℃のオーブンで約15分焼く。



カスタードクリーム

卵黄とグラニュー糖を混ぜる。
そこに振った小麦粉を混ぜる。
小麦粉がなじんだら、牛乳を混ぜ、
全体がなじむまで湯せんする。



ホイップクリーム

生クリームをたてる。
ボールを逆さにして
生クリームが落ちない程度まで



完成品



まとめ

- 里川カボチャ本来の甘さを最大限に活かしたスイーツ。
- 里川カボチャの色がとてもきれいなので、その色を引き立たせるように、全体の色のバランスを意識した。
- 素材の持っている色・味を消さずに、最大限に活かしていくことを今後も考えていきたい。

今回作ったもの

- かぼちゃのシュークリーム
- かぼちゃのマドレーヌ



かぼちゃのシュークリーム

材料(シュー生地) 30個分

牛乳	180ml
水	180ml
無塩バター	180g
砂糖	3g
塩	少々
薄力粉	210g
全卵	8個

作り方(シュークリーム シュー生地)

1. 牛乳,水,無塩バター,砂糖,塩を鍋に入れ弱火〜中火にかける。
2. まわりがふつふつとして白い泡が立ったら,火を止め薄力粉を入れる。
3. 粉の粒が見えなくなるまで,木べらで手早くしっかりと練る。
4. だんご状に1つにまとまったら再び火にかけ,よく生地を練る。
5. 上から押さえつけるように混ぜ,鍋底に薄く膜ができるようになったら火を止め,ボウルに移す。
6. ぬれ布巾の上ののせて,溶きほぐした卵を少しずつつけて加える。

作り方(シュークリーム シュー生地)

7. しぼり袋に生地を入れる。
8. クッキングシートを引いた天板に直径4cmに丸くしぼり出す。
9. しぼり終わりのとがった部分を水でぬらした指先で軽く押さえ,さらに全体に霧吹きかける。
10. オープンに入れて190〜200℃で20分焼く。
11. 170〜180℃に下げてもさらに10〜15分焼く。

かぼちゃのシュークリーム

- 材料(かぼちゃのクリーム) 30人分

かぼちゃ	1260g
牛乳	150g
バター	36g
砂糖	54g

作り方(シュークリーム クリーム)

1. かぼちゃを一口大に切る。
2. かぼちゃのクリームの材料を耐熱ボールに入れる。
3. それを700wで20分温める。
4. かぼちゃに竹串が通ったらそれを裏ごしして混ぜる。

かぼちゃのマドレーヌ

- 材料(生地) 47個分
無塩バター 250g
卵 250g
グラニュー糖 250g
はちみつ 75g
薄力粉 250g
ベーキングパウダー 2g
- 材料(かぼちゃのペースト) 47個分
かぼちゃ 200g
砂糖 30g

作り方(マドレーヌ)

1. ボウルに卵を入れて泡立て器でときほぐす。
2. グラニュー糖,はちみつを加えて混ぜる。
3. 溶かしバターを少しずつ混ぜながら加える。
4. ふるった粉類をもう一度ふるいながら加える。
5. すべてが入ったら、ゴムベラで切るように混ぜる。

作り方(マドレーヌ)

6. 生地に粉っぽさがなくなったら,ラップをかぶせて冷蔵庫で30分休ませる。
7. 生地を軽く混ぜながら,マドレーヌ型にかぼちゃのペーストを層になるように8分目まで入れる。
8. オープンに入れて,180℃で約15分焼く。
9. 型から取り出し,並べて冷ます。

完成品



ご視聴
ありがとう
ございました。